

授 業 概 要

授業科目名 健康科学	授業の種類 講義		授業担当者 杉田 美瑛
授業の回数 8回	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
【授業の目的・ねらい】 自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。			
【授業全体の内容の概要】 健康科学のテキストにより科学的健康づくりを学ぶ。			
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、健康な生活を送ることができるようになる。			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 1. 健康な生活設計 2. 運動の基礎理論 3. 運動処方① 4. 運動処方② 5. 健康と運動、食生活 6. 身近な病気(～食中毒・がん～) 7. 身近な病気(～薬害・エイズ～) 8. 試験			
【使用テキスト・参考文献】 「健康科学」(長谷川定宣)		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 科目試験の結果により判定し評価する。	
【担当講師】 栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士			

授 業 概 要

授業科目名 教育原理	授業の種類 講義		授業担当者 栗原 美幸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>教育の課題と可能性についての理解を深める。また、学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶ。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>教育の課題と可能性について理解し、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解している。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育、教育原理の意義・目的・特性と子ども家庭福祉等との関連性 2. 世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践 3. 世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践 4. 日本の教育思想 5. 子どもの発達と教育 6. 子どもの権利 7. 制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園 8. 内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園 9. 世界における教育の歴史的変遷 10. 日本における教育の歴史的変遷 11. 公教育制度、義務教育制度 12. 教師という仕事、教授法 13. 教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化 14. 教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>「教育原理」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業態度(授業中に実施する確認テスト、提出物)と試験の総合評価とする</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 保育原理	授業の種類 講義		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育の意義、歴史的変遷、保育環境、方法などについて学び、保育における健康・安全・家庭や地域との連携などについての幅広い知識を習得すると共に、自らのこども観、保育観を育んでいく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>保育の意義とその思想、歴史と現状及び保育の特性・目標・方法・環境について基本的な知識を学ぶと共に、家庭地域との連携について理解する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育の歴史と思想を知り、保育の場、方法及び内容について理解でき、保育士の役割について考えることができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育を学ぶということ 2. 子ども理解 3. 子ども観・保育観 4. 子どもの理念を支える法規 5. 幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能 6. 保育の場 7. 保育の目標と内容 8. 保育の方法 9. 子どもの発達と保育 10. 保育の計画と評価 11. 子どもの育ち・学びの連続性 12. 日本の保育の現状と課題 13. 子育て支援 14. 海外の保育事情と保育者のあり方 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 つながる保育原理 (みらい)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】 佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こども家庭福祉	授業の種類 講義		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 こども家庭福祉制度の発展過程および現在の法制度、こども家庭福祉の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。また、保育士の役割とこども家庭福祉における相談援助活動について理解する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 こどもの権利を基盤としたこども家庭福祉にかかわる法制度とこども家庭福祉の現状を理解したうえで、こどもや家庭に対する相談援助活動について学ぶ</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 こども家庭福祉にかかわる法制度と援助活動について理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こども家庭福祉の理念と概念 2. こども家庭福祉の歴史的変遷 3. こども家庭福祉の制度と法体系 4. こども家庭福祉行財政実施機関 5. こども福祉施設等・児童家庭福祉の専門職 6. 少子化と子育て支援サービス 7. 母子保健と児童の健全育成 8. 児童虐待・ドメスティックバイオレンスの防止 9. 社会的養護 10. 障害のある児童の地域の暮らし 11. 少年非行などへの対応 12. ひとり親家庭 13. こども家庭福祉の推進と次世代育成支援 14. 保育・教育・療育・保険・医療との連携 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・児童の福祉を支える子ども家庭福祉 萌文社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 社会福祉論	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 福祉実践の根底となる社会福祉の理念を学び、実践において必要な社会福祉の制度や動向を理解し、実践基盤の構築につなげていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉の法的基盤や歴史の変遷を通して、社会福祉の理念と意義を学ぶ。また、社会福祉の制度などを理解し、権利擁護などの社会福祉の実践を学ぶ。さらに、相談援助を中心とした専門技術を理解し、地域福祉の推進など現代の社会福祉の動向を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の歴史の変遷を理解するとともに、その意義や支援の視点を理解する。 ・社会福祉の制度とその仕組みについて理解する。 ・社会福祉における相談援助の意義と方法を理解する。 ・社会福祉における利用者の保護とその仕組みを理解する。 ・社会福祉の動向と課題について理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念と課題①－社会福祉の概念について法的基盤から学ぶ 2. 社会福祉の理念と課題②－福祉ニーズおよび社会参加とは何かを学ぶ 3. 社会福祉の理念と課題③－自立と平等の支援のあり方について学ぶ 4. 社会福祉の歴史の変遷①－社会福祉の歴史的な取り組みについて学ぶ 5. 社会福祉の歴史の変遷②－福祉的支援の担い手について学ぶ 6. 社会福祉と各分野の福祉－社会福祉と各分野の福祉とのつながりと、支援の基本的な考え方について学ぶ 7. 利用者の権利擁護－利用者の権利擁護とその実践について学ぶ 8. 社会福祉の制度①－社会福祉の法律について学ぶ 9. 社会福祉の制度②－社会福祉における国および地方公共団体の役割と実施機関について学ぶ 10. 社会保険－社会保険の内容について学ぶ 11. 利用者を保護する仕組み－社会福祉における利用者保護の仕組みについて学ぶ 12. 社会福祉の相談援助①－相談援助の意義と原則について学ぶ 13. 社会福祉の相談援助②－相談援助の方法と技術について学ぶ 14. 社会福祉の動向と課題－少子高齢社会の課題と在宅福祉・地域福祉の推進を学ぶ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『生活事例からはじめる 社会福祉』青踏社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こども家庭支援論	授業の種類 講義		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子育てにおける「家庭支援」の背景や必然性および目的を理解し、その方法と今後の課題を考察して、実践に活かすことができるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>授業毎にテーマを設定し、読み取り、発表という流れの中で、クラス全体で共有し教科書の理論と結びつけていく。また、子育て支援の場面を実際に実演し、理解を深める。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>子育ての環境とそこを取り巻く関係にかかわる内容をを知り、自分の回りにいる子どもたちの為に積極的に保護者や関係機関や地域の人々との繋がりを作っていこうという気持ちになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義 2. 家庭の機能 3. 社会の基礎単位としての家庭 4. 保育士などが行う家庭支援の原理 5. 現代の家庭における人間関係 6. 家庭生活を取り巻く社会的状況 7. 男女共同参画社会とワークライフバランス 8. 子育て家庭の支援体制 9. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 10. 子育て支援サービスの概要 11. 保育所における家庭支援 12. 子育て支援と保護者の関係作りへの支援 13. 地域の子育て家庭への支援 14. 子育て支援サービスの課題 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・児童の福祉を支える家庭支援論 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・授業態度・試験・提出物の総合評価とする。</p> <p>・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美:職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 社会的養護 I	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>社会的養護の歴史の変遷を通して、その意義を学び、社会的養護の体系を学ぶ。また、子どもの権利を学び、援助者としての倫理と権利擁護について学ぶ。さらに、自立支援など社会的養護の原理を学び、社会的養護の現状と課題を理解し、施設養護と家庭養護の実状や特徴を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>「社会的養護の意義と歴史の変遷」「社会的養護の体系」「社会的養護における児童の自立支援」「社会的養護の現状と課題」をテキストを用いて学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の歴史の変遷を通して、その意義を理解する。 ・子どもの権利を学び、支援者の倫理と権利擁護を理解する。 ・社会的養護の制度と実施体系を理解する。 ・社会的養護の対象と形態、関係する専門職等を理解する。 ・社会的養護の現状と課題を理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と変遷 2. 子どもの人権擁護と社会的養護 3. 家庭の機能と社会的養護 4. 社会的養護の基本原則Ⅰ 養育－日常生活支援 5. 社会的養護の基本原則Ⅱ 保護－自己実現に向けた支援 6. 社会的養護の基本原則Ⅲ 子どもあることへの回復－治療的支援 7. 社会的養護の基本原則Ⅳ 生活文化と生活力－自立支援 8. 社会的養護の基本原則Ⅴ 生命倫理観の醸成－生と性の倫理 9. 社会的養護の制度と実施体系 10. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ－乳児院と児童養護施設 11. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ－障害児の入所施設 12. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ－児童自立支援施設と児童心理治療施設 13. 家庭養護の特徴・対象・形態－里親とファミリーホーム 14. 社会的養護の現状と課題 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>水野正伸：職歴－生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格－社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 教職論	授業の種類 講義		授業担当者 栗原 美幸
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育への課題に関心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき保育教育のビジョンを明確にし、自分が目指す教職者像の確立を図ることを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>教職者の資質、専門性、制度的位置づけ、子どもの理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携を学び、理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深める。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>教職者に求められる資質能力や教職の在り方などの基本的事項について理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育(教職)とは何か 2. 教職(保育)者に求められる資質・能力 3. 教員(保育者)養成の歴史 4. 教員(保育者)に求められる資質 5. 指導計画(保育のねらい・内容) 6. 教職(保育)者の仕事・義務・研修 7. 教職(保育)者の職場環境 8. 教職者の制度的な位置づけ 9. 教職者の任用と服務 10. 教育(保育)現場における子どもとの関わり(あそび・環境) 11. 教育(保育)現場における家庭との連携・支援・地域との連携 12. 教職(保育観)の変遷と教員(保育者)の役割 13. 職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携 14. 今日的な教育課題に対応するために・よい(保育)者になるために 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>教職論 (豊岡配本テキスト)</p> <p>「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」</p> <p style="text-align: right;">(学陽書房)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、授業中に実施する確認テスト、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 発達心理学	授業の種類 講義		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 人の心と身体がいつの時期にどのように変化するのか、その特徴を学び、それぞれの時期の問題、課題、乗り越え方などを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 子どもを理解するために、胎児期から老年期までの人の心と身体の変化について学ぶ。子どものみならず、家庭への支援につながることを理解する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 生涯発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもや家庭への理解を深め、保育の場で活かすことができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学とは 2. 胎児期の発達 3. 乳児期の発達① 4. 乳児期の発達② 5. 幼児期の発達① 6. 幼児期の発達② 7. 児童期の発達① 8. 児童期の発達② 9. 青年期の発達① 10. 青年期の発達② 11. 青年期の発達③ 12. 成人期・高齢期の発達① 13. 成人期・高齢期の発達② 14. 実践の評価 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 ・よくわかる発達心理学 ナツメ社 ・実践・発達心理学 みらい社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
こどもの発達と家庭支援	講義		松山 千種
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】 それぞれの期における発達を理解したうえで、家庭の在り方、親子の関係性などを学び、多様な家庭への支援について理解する。また、特別な配慮を必要とする家庭、発達支援の必要な子どものいる家庭についても理解する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 子どもを取り巻く家庭や社会の状況が複雑になる中で、こどものみならず、家族や家庭の理解、その現状と課題について学ぶ</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 子どもの発達を押さえながら、子育て家庭を取り巻く社会的状況や多様な家庭形態の理解を深め、支援にあたってのポイントを理解する</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達とは何か 2. 乳幼児期から学童前期にかけての発達 3. 学童後期から青年期にかけての発達 4. 成人期・老年期における発達 5. 子育てを取り巻く状況 6. 家族・家庭の意義と機能 7. 親子・家族関係の理解 8. 子育ての経験と親としての育ち 9. 多様な家庭形態とその理解 10. 特別な配慮を必要とする家庭とは 11. 特別な配慮を必要とする家庭への配慮・支援にあたってのポイント 12. 発達支援の必要な子どものいる家庭①家庭の実態とその支援 13. 発達支援の必要な子どものいる家庭②医療的ケア児を育てる家庭への支援 14. 子どもの精神保健 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援の心理学 みらい ・こどもの発達と家庭支援 豊岡テキスト 		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの理解と援助	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>こども一人ひとりの心身の発達を理解したうえで、こどもを理解するために、保育者に求められる援助の在り方を考える</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>リスクマネジメントや特別支援教育などの演習課題で、これまでの学びを整理、再確認し学びを確かなものとしていく</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育現場に立つ前にこれまでの学びを振り返り、専門職としての自覚を持つ</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもを理解すること 2. 保育におけるこども理解の方法 3. 保育におけるこども理解の実際 4. 保育の環境の理解と構成 5. こどもの集団での育ち 6. こどもを理解するための観察・記録・省察・評価 7. 保護者、職員間の情報共有 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども理解と援助 演習ブック ミネルヴァ書房 ・こどもの理解の理論及び方法 ドキュメンテーション(記録)を活用した保育 萌文書林 <p style="text-align: right;">フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】</p> <p>松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの保健	授業の種類 講義		授業担当者 小林 栄
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもの身体発育や生理機能及び運動機能、精神機能の発達と保健について理解し、さらに、子どもの疾病や事故とその予防法や適切な対応についての理解を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>子どもの心身の発達について学び、子どもの健康、保健活動の意義と目的について理解する。さらに、子どもの精神保健とその課題についての理解を深める。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>子どもの健康の意味を理解し、保育実践における保健活動の意義について考えることができる。また、子どもの疾病や事故の予防とその対応の基礎的な知識を身につけ、子どもの健康と環境について理解できる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康と保健の意義 2. 子どもの発育・発達と保健①身体発育・生理機能の発達と保健 3. 子どもの発育・発達と保健②運動機能・精神機能の発達と保健 4. 子どもの疾病と保健 5. 子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健 6. 子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題 7. 環境および衛生管理ならびに安全管理 8. 健康および安全の実施体制 9. 保健活動の計画および評価 10. 子どもの保健と環境 11. 子どもの疾病と適切な対応①感染症予防、乳児への適切な対応 12. 子どもの疾病と適切な対応②障害のある子どもへの適切な対応 13. 事故防止および健康安全管理①救急処置および救急蘇生法の習得 14. 事故防止および健康安全管理②災害への備えと危機管理 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>これならわかる子どもの保健演習ノート (改訂第3版追補)</p> <p style="text-align: right;">診断と治療社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 教育課程論	授業の種類 講義		授業担当者 栗原 美幸
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する ・教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に習得する。 ・保護者や関係機関との連携について学ぶ <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>幼児、こどもを育てる上で、大切なこと(目標)、どのような方法・手だて(方針)、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成に関する法体系や、学習指導要領(幼稚園教育要領・保育所保育指針)の変遷が理解できる。 ・教育課程・保育の基本や教育の歴史を学ぶとともに、教育をめぐる諸問題について理解できる。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性 2. カリキュラムの基礎理論 3. 日本における教育課程・各国の教育課程の変遷 4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方、編成と評価 5. 教育課程の法と行政 6. 学習指導要領の変遷とその特色 7. 園生活と長期・短期の指導計画 8. 教育課程・保育課程編成の実際 9. 保育の基本と実践(記録及び省察による教育・保育の質向上) 10. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム 11. 明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史 12. 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性 13. 幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷 14. 教育課程をめぐる諸問題 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>教育課程論 豊岡テキスト 「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」 学陽書房</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験、授業中に実施する確認テスト、提出物、授業態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 保育内容総論	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的に捉える視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>領域別の授業で学んだ内容を実際の子ども姿や保育場面に結びつけて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに開設する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育内容の構造を理解し、保育を展開するにあたり必要となる指導計画や現代的な課題への理解、子どもの遊びと育ちについて理解を深め、舞台的な保育実践につなげることができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容総論とは 2. 保育内容の歴史的変遷 3. 改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容の捉え方 4. 乳幼児にふさわしい生活と保育内容 5. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 6. 全体的な計画の作成と指導計画の作成 7. 保育の評価と保育の記録・保育内容の現代的課題について 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>保育内容総論 豊岡配本テキスト 「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」 学陽書房</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「言葉」	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児期の言葉の発達過程および、保育者の言葉の在り方を理解することを目的とする。また、その言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢などについても取り組む。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>乳幼児期の言葉の発達やその仕組み、子どもへの先達となる保育者の言葉の在り方、姿勢などについて学習を深めるとともに、言語教材を使用しての取り組みから、文字への興味、言葉の持つ楽しさなどを探求し、言葉を獲得するとはどういうことなのかを解説する。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>①乳幼児期の言葉の獲得過程の理解。②子ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解。③子どもの手本となる保育者の言動の在り方を認識し、理解。④乳幼児の一番身近な存在である母親の言葉掛けから学び、言葉を引き出す言葉掛けの在り方理解。⑤実践を通して言語教材が持つ意義を認識、理解。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育と言葉 2. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 3. 言葉を豊かに育む活動(1) 4. 言葉を豊かに育む活動(2) 5. 保育者と言葉のあり方 6. 言葉を豊かに育む活動(3) 7. 言葉を豊かに育む活動(4) 8. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携・試験 単位認定試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>事例で学ぶ保育内容 領域 言葉 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・授業態度・試験・提出物の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美:職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「人間関係」	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動をすることや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>子どもたちを取り巻く「人間関係」の在り方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりを通じた人間関係の発達についてエピソードを取り上げ解説していく。また、保育者としてどのように子どもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者として子どもとどのような関係性を築いていくのかを考察していく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>①保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容が説明できる。②人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる。③養育者・保育者・地域の人々など、子どもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と人とのかかわり 2. 乳幼児期における人との関わりの発達 3. 遊びのなかで育つ人とのかかわり 4. 人との関わりを育てる保育実践 5. 人との関わりを育てる保育者の役割 6. 人との関わりが難しい子どもへの支援 7. 園、家庭、地域の生活と人との関わり 8. 領域「人間関係」をめぐる諸問題 <p style="text-align: center;">単位認定試験</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・体験する・調べる・考える 領域 人間関係 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・試験、提出物、授業態度、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「造形表現」	授業の種類 演習		授業担当者 辻岡 世紀子
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感などの基礎的な知識及び技能の3つ(えがく・つくる・造形あそび)を領域を通して体験的に習得する。また、教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>幼児造形の指導・援助者として形や色などの造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現方法から想像力を高め、体験的に理解する。それらの特性を活かして創意工夫しながら制作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>子ども達が主体的に造形を生み出す働きかけの活動について学び、そこには充実感や達成感が伴う事を理解する。そのための必要な素材や教材などの特性を理解し、活用する知識や技術を身につける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育要領における「表現」領域及び小学校との連携 2. 造形教育の思想と指導法の推移及び子どもの発達段階における表現の特徴 3. こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価 4. 教材研究を伴う制作Ⅰ(えがく) 5. 教材研究を伴う制作Ⅱ(つくる) 6. 教材研究を伴う制作Ⅲ(造形あそび) 7. 実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび) 8. 保育展開指導法と情報機器及び教材の活動 まとめ・試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>造形表現論 豊岡・配本テキスト 保育をひらく造形表現 萌文書林 イラストで読む! 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 はやわかりBOOK (学陽書房)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・試験・提出物の総合評価とする。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 辻岡世紀子:職歴—保育士歴29年、レクリエーション・インストラクター養成講習会講師歴26年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、日本レクリエーション協会公認指導者</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「音楽表現」	授業の種類 演習		授業担当者 北村 年子
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1・2年生	配当時期 通年
<p>【授業の目的・ねらい】 保育内容に沿ってこどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人間形成を育成することをテーマとする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行なう。実技習得は、各自の習得度に応じた個別指導も行なう。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識を習得する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ピアノ実技およびソルフェージュのレッスン授業としてのガイダンス 2. 第1教程では合理的なピアノ奏法を学ぶ 保育現場で必要とされるピアノ伴奏の理解と学習 3. 多種の楽器による音楽表現の気付きと、音楽表現におけるピアノ伴奏の役割の考察と学習 4. 腹式呼吸の習得と音程と拍子に注目したソルフェージュ課題の学習 5. 発表会形式によるプレテスト(ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く) 6. 第2教程では指の交差、ポジション移動を習得する。テキストより練習曲を選び学習する(グルーブレッスン) 7. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも第2教程課題曲の形式など楽曲構成にも注目し、レッスン形式にて学習する 8. 弾き歌いを意識した発声法の考察と実践 9. 音楽表現の補助を意識した和音選択とピアノ伴奏形の習得 10. 発表会形式によるプレテスト(ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く) 11. 第3教程では様々な国や時代の作曲家による楽曲も学習することにより表現の幅を広げる(グルーブレッスン) 12. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも第3教程課題曲の調性や形式など楽曲構成にも注目し学習する(グルーブレッスン) 13. 課題曲の弾き歌いにおける個々の習得度に合った伴奏法の選択とその確立 14. 弾き歌いにおける効果的な発声と伴奏の応用 15. 模擬保育形式による課題曲発表(ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴いて試験) 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 こどもと音楽表現 ポケットいっぱい 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ</p>		<p>配本テキスト 教育芸術社 萌文書林</p>	<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・試験、提出物、授業態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。</p>
<p>【担当講師】 北村年子: 職歴—フルート・ピアノ・音楽理論講師歴25年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法(言語表現)	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>児童文化を子どもに与えるものとしてではなく、子どもによって生み出されるものとして捉える。子ども達が言葉と言葉を表現する力の大切さを大切にし、保育者が子どもの遊びに積極的に関わるためのかかわり方を身につける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>理論を踏まえた上で、保育のばにおいて役に立つ技術を身に付けることと、子ども達が文化によって夢や希望を与えられるだけではなく、自らが文化を創り出す活動や表現ができるようにすることも視野に入れ学習を行なう。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>児童文化に関する理論を理解し、保育技術として、絵本や紙芝居の読み聞かせなど場面を通してのかかわり方や提供の仕方ができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもと文化のかかわり 2. 伝統文化1(折り紙の基礎) 3. 絵本1(こどもの絵本・種類) 4. 絵本2(読み聞かせの留意点・演習) 5. 絵本3(手作り絵本) 6. 紙芝居1(歴史・特徴・演じ方の方法と留意点) 7. 紙芝居2(意義・選び方・歴史・語り聞かせの方法と留意点) 8. まとめ・試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・保育実践に生きる「言語表現」 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・授業態度・演習・試験・提出物の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの指導法「環境」	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児期の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>環境とは何かを理解し、そこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例をあげて学習していく。また、グループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育内容「環境」のねらいと内容を理解している。こどもを取り巻く様々な環境に理解と関心を持つ。保育者の役割を常に考え、保育実践力が身に付いている。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは 2. 領域「環境」の位置付け 3. 身近な環境の構成 4. 保育における環境の重要性と小学校との連続性 5. 保育環境のデザイン 6. 保育者の3つの役割 7. さまざまな環境との出会い 8. こどもの遊びの世界における「3問」の意味と保育の課題 <p style="margin-left: 20px;">科目試験</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・環境論 豊岡配本テキスト ・体験する・調べる・考える 領域「環境」 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度、課題、試験の配分割合により100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもと造形	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもの成長発達との関連性を踏まえながら、5領域のひとつである「表現」について理解を深める。造形表現活動における保育者としての援助の在り方や、活動が豊かに展開できるような知識、技術を身につける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>子どもの成長発達に応じた表現活動について、実践をもとに理解する。また、画材や用具の特性を利用した製作や個々の子どもへの援助の方法を考察していく</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>素材や教材の特性や扱い方、活用する知識や技術を理解し身につける。子どもたち自らが、造形を通じた自由な表現活動を楽しみ、充実感や達成感を味わうことができるような働きかけを学ぶ。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 造形表現と子どもの成長発達の関連性 2. 子どもの感性と造形表現 3. 素材で遊ぶ①(紙・絵の具) 4. 素材で遊ぶ②(自然物) 5. 素材で遊ぶ③(廃材・段ボール) 6. 色と光について 7. 造形表現活動のための準備、配慮、援助について 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形表現論 豊岡テキスト ・保育をひらく造形表現 萌文書林 ・イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK 学陽書房 		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】</p> <p>松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 乳幼児保育 I	授業の種類 講義		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児の成長や発達について理解し、乳幼児保育の意義・目的を知る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>乳幼児保育の歴史や意義を知るとともに、乳幼児の発達と生活の内容を理解し保育の技術を養う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>乳幼児保育の意義や、家庭と保育者の関わりについて理解し、乳幼児の成長のポイントを押さえながら、保育を担う者としての心と知識と技術を身につける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児保育の意義・目的と役割 2. 乳幼児保育の現状と課題 3. 乳幼児保育の実際① 4. 乳幼児保育の実際② 5. 身体機能の発達と保育 6. 基本的な生活習慣獲得と保育 7. 対人関係の発達と保育 8. 満1歳未満児の保育 9. 1歳児の保育 10. 2歳児の保育 11. 乳幼児保育における環境 12. 乳幼児保育における計画・記録・評価 13. 乳幼児保育と連携・協働 14. まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 やさしい乳児保育 青踏社</p> <p>ここがポイント！3法令ガイドブック-新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解</p> <p style="text-align: right;">フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】 松山千種:職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 乳幼児保育Ⅱ	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>乳幼児保育の全体像を理解する知識と実践力を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>乳幼児保育Ⅰの基本を振り返りながら乳幼児の発達と生活の内容をより理解し、演習を通して実践力を養っていく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>乳幼児期の発達のプロセスとその意義について事例を通して考え、乳幼児・家庭・保育者の関わりについて理解し、保育者の援助の在り方を考えることができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践編1(朝の受け入れ) 2. 実践編2(食事) 3. 実践編3(睡眠) 4. 実践編4(排泄) 5. 実践編5(着脱・清潔) 6. 実践編6(遊び) 7. 実習編7(午後のお迎え・お帰り) 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>アクティブラーニング対応 乳幼児保育Ⅱ 萌文書林</p> <p>ここがポイント！3法令ガイドブック-新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解 フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】</p> <p>松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもの健康と安全	授業の種類 演習		授業担当者 小 林 栄
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>子どもの健康及び安全に関する保健活動について学び、子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境について理解する。また、こどもの疾病や事故とその予防及び適切な対応について学びを深め、実践に結び付けられるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>子どもの保健活動の計画および評価のための健康状態の観察技術、また、子どもの健康増進、発達、安全管理のための環境整備、子どもの疾病への適切な対応、予防、救急時の対応などについて学ぶ。また子どもの健康福祉や母子保健などの地域活動などについて理解し、家庭、地域、専門機関との連携の在り方を学ぶ</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ・子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 ・関連するガイドラインや近年のデータ等に基づき、保健の観点から適切な対応について具体的に理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2. 保育における健康及び安全の管理 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 4. 感染症対策 5. 保育における保健的対応①3歳未満児への対応、個別的な配慮を要する子どもへの対応 6. 保育における保健的対応②障害のある子どもへの対応 7. 健康及び安全の管理の実施体制 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>よくある子どもの病気・けが・きずの対応マニュアル ひかりのくに これならわかる！子どもの保健演習ノート改訂第3版 診断と治療社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験、提出物、授業態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】</p> <p>小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 特別支援・保育概論	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>多様な障害の特性と、発達の状態や個性に応じた特別支援教育・保育の必要性を理解する</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>障害の特性を理解し、個々の発達をうながす生活や遊びの環境を整える適切な援助や、障害児を持つ家庭への支援、協力機関との連携を学ぶ</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>障害を理解し、学んだ保育の知識や技術を活かして、子どもがそれぞれ持っている個性に応じた援助を考える力を身につける</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育・特別支援教育とは 2. 障害児保育・特別支援教育の基本 3. 障害の理解と保育①知的障害、聴覚障害 4. 障害の理解と保育②肢体不自由、脳性麻痺とは 5. 障害の理解と保育②重症心身障害、医療的ケアとは 6. 障害の理解と保育②肢体不自由、脳性麻痺とは重症心身障害のある子どもの保育 7. 発達が気になる子どもの理解と保育 8. 障害の理解と保育③自閉症スペクトラム 9. 障害の理解と保育③学習障害、注意欠如・多動性障害 10. 子ども理解に基づく計画の作成 11. 保護者支援と今後の課題 12. 家庭や関係機関との連携 13. 職員間の協力関係 14. 早期発見と就学に向けての支援 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・実践に活かす障害児保育・特別支援教育</p> <p style="text-align: right;">フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p> <p>・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 社会的養護Ⅱ	授業の種類 演習		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 8回	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
【授業の目的・ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解に基づく社会的養護の基本的な支援について学ぶ。 ・社会的養護の実際について学ぶ。 ・社会的養護における子ども虐待防止と支援について学ぶ。 ・社会的養護における相談援助の知識と技術について学ぶ。 			
【授業全体の内容の概要】 授業テーマに基づき、テキストを用いてミニワークを取り入れながら学ぶ。			
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解に基づく社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・施設養護および家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における支援計画について理解する。 ・社会的養護にかかわる相談援助の技術について理解する。 ・社会的養護における子どもの虐待防止と支援について理解する。 			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの理解に基づく社会的養護－社会的養護における子どもの理解と支援の基本 2. 子どもの理解に基づく社会的養護－社会的養護における保育士等の専門性 3. 社会養護の実際－児童養護の体系と児童養護施設の概要 4. 社会養護の実際－施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際 5. 保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践－子どもの虐待への対応 6. 保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践－子どもと家族への支援 7. 保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践－社会的養護における相談援助技術の活用 8. 試験 			
【使用テキスト・参考文献】 『児童の福祉を支える <演習> 社会的養護Ⅱ』萌文書林		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。	
【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員			

授 業 概 要

授業科目名 子育て支援	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>具体的な事例を基にした演習を中心に行い、学生自身が事例をもとに話し合い、グループ討議、クラスでのまとめと展開しながら授業を進め、一つ一つ紐解きながら、理論と演習を通して理解していく。1つお考えに固執することなく、多角的な視点を持つことが出来るように意識しながら取り組む。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育士の行う子育て支援についてさまざまな場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を実践事例などを通して具体的に理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに・子どもの保育とともに行う保護者の支援 2. 日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3. 保護者や家族の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4. 子どもおよび保護者の状況・状態の把握 5. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 6. 職員間の連携・協働 7. 保育所等における支援 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・子育て支援 ・子どもはこう育つ！</p> <p style="text-align: right;">中央法規 赤ちゃんとママ社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・授業態度・提出物の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもとミュージック I	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 保育の場での音楽表現活動を楽しく豊かにするために必要な音楽に関する基礎的な知識及び技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 楽譜を読むために必要な知識を学び、基礎的教則本バイエルを使用して、弾き歌い、伴奏法につなげるためのピアノ演奏技術を習得する。また多くの童謡を知り、音楽活動の楽しさや喜びを味わう。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 弾き歌い、伴奏ができることを目指し、ピアノの基礎技術を習得する。 音楽基礎理論を習得し、楽曲を正しく理解し、表現する力をつける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 ピアノのしくみと基本的な奏法 2 ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 姿勢 手の形 指づかい リズムと拍 テンポ 3 ピアノ実技の基礎 レガート奏法 4 ピアノ実技の基礎 両手演奏 ユニゾン 5 ピアノ実技の基礎 両手演奏 左右で異なるメロディ・反進行 6 ピアノ実技の基礎 楽曲形式 音楽用語と記号 7 楽譜の読み方と演奏 こどものうたを使ったソルフエージュ① 8 楽譜の読み方と演奏 こどものうたを使ったソルフエージュ② 9 楽譜の読み方と演奏 歌唱と表現あそび① 10 楽譜の読み方と演奏 歌唱と表現あそび② 11 ピアノ実技のステップアップ 正確、確実に演奏(楽譜を見ながら 指番号 鍵盤) 12 実技試験(バイエル課題曲) 13 ピアノ実技のステップアップ 正確、確実に演奏(楽譜を見ながら 指番号 鍵盤) 14 ピアノ実技のステップアップ スムーズな演奏 15 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 子どものための音楽表現技術 萌文書林 ポケットいっぱい のうた 実践こどものうた 簡単に弾ける 144選 教育芸術社 子どもがときめく名曲&人気曲でリミック 自由現代社 こどもと音楽表現 豊岡短期大学</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・授業態度・筆記試験の総合評価。 2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。</p>	
<p>【担当講師】 濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こどもとミュージックⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕 音楽の楽しさを伝え、豊かな感性と表現力を育む音楽活動を援助するために、基礎的な知識と技術を習得し実践力を身につける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 こどもの発達段階に合わせた音楽活動を展開するための音楽理論を学び、歌唱、楽器の指導、弾き歌い伴奏法に活かす方法を学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 音楽理論を習得し、音楽表現に活かすことができる。 実践的な音楽活動が展開できるようにピアノ演奏技術を向上させ、弾き歌い、伴奏ができる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽理論の基礎① 五線のしくみ 2 音楽理論の基礎② 拍子と音符、リズム 3 音楽理論の基礎③ 速度、強弱、曲想、奏法、繰り返しに関する用語・記号 4 音楽理論の基礎④ 音程 5 音楽理論の基礎⑤ 音階と調 6 音楽理論の基礎⑥ 移調 7 音楽理論の基礎⑦ 和音とコードネーム 8 音楽理論の基礎⑧ コード伴奏法(1)和声機能、展開形 9 音楽理論の基礎⑨ コード伴奏法(2)いろいろな調の和音進行、旋律のコード選択 10 こどもの歌① 歌詞とイメージから表現あそびへ(春・夏) 11 こどもの歌② 歌詞とイメージから表現あそびへ(秋・冬) 12 器楽表現① 楽器の演奏法を知り、さまざまな音色に親しむ 13 器楽表現② 楽器を用いた表現あそび、器楽アンサンブルの指導 14 音楽表現あそびの実践にむけて 15 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> 子どものための音楽表現技術 萌文書林 ポケットいっぱいのおた 実践子どものうた簡単に弾ける 144選 教育芸術社 こどもと音楽表現 豊岡短期大学配本テキスト 子どもがときめく名曲&人気曲でリミック 自由現代社		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・授業態度・筆記試験・ 実技試験の総合評価。 2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。</p>	
<p>【担当講師】 濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名 ミュージックケア	授業の種類 演 習		授業担当者 宮川 深雪
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15 時間	配当学年 2年	配当時期 後 期
【授業の目的・ねらい】 保育園や幼稚園等の現場で、保育の一環として音楽療法の概要を学び、ミュージック・ケアの理論と技術を身につける。支援者として心のこもった実践ができるようにする。			
【授業全体の内容の概要】 1.ミュージック・ケアの理論を学ぶ。2.メソッドの基本曲を中心に目的と技術を習得する。 3.対象者のグループカウンセリング、心身の発達に即した保育を習得する。			
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 現場で、即、実践につながるような技術と支援ができるようになる。			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 保育・幼稚園コース 1 ミュージック・ケアの理論と実際 2 楽曲習得①と実践プログラム 3 楽曲習得② 4 楽曲習得③ 5 楽曲習得④ 6 楽曲習得⑤ 7 楽曲習得⑥とまとめ 8 保育・幼稚園コース試験			
【使用テキスト・参考文献】 『ミュージック・ケア その基本と実際』 宮本啓子 『だれでも・どこでも・いつでも』 磁場の会 『ミュージック・ケア 実技編』 日本ミュージック・ケア協会		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・実技試験・レポート提出・受講態度により評価する。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。	

【担当講師】

宮川深雪：職歴—ミュージックケア指導者歴19年
 資格—介護福祉士、社会福祉士、保育士、介護支援専門員、日本ミュージック
 ケア協会認定指導者

授 業 概 要

授業科目名 福祉レクリエーション I	授業の種類 演習		授業担当者 松山千種・杉田美瑛
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 保育実習や保育現場ですぐに役立つ児童文化財や集団遊びなどの基本的な知識を学び、実践や体験を通して保育技術を習得する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 子どもの心を豊かに育てるために効果的な教材(絵本、紙芝居、言葉遊び、伝承遊び、ペープサートなど)について体験を通して学びながら、保育者として必要な技術や知識を身につける</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 実践につながる知識、技術の習得とともに、子どもの遊びを豊かに展開するための保育者の在り方を理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体ほぐし運動について 2. 体ほぐし運動 実技 3. リズムダンスについて 4. リズムダンス 実技① 5. リズムダンス 実技② 6. リズムダンス 模擬保育に向けた計画の作成 7. リズムダンス 模擬保育に向けた計画の作成 8. 児童文化財について 9. 絵本の読み聞かせについて 10. 絵本を使ったコミュニケーションワークショップ 11. 集団遊び・季節に合わせた遊びについて 12. 季節に合わせた遊び・行事の計画の作成 13. 季節に合わせた遊び・行事の計画の実践 14. 季節に合わせた遊び・行事の実践の振り返り 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 言葉と表現力を育む児童文化 萌文書林</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】 松山千種:職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 福祉レクリエーションⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 杉田美瑛/栗原美幸
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>福祉レクリエーションサービスの理論と根拠に基づき、様々な年齢の対象者にあわせたレクリエーションの実践を学び、その援助方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>対象年齢に合わせた手遊び、ゲーム、歌・ダンス、体操等、様々なレク財の技術、その援助方法を習得する。従来のレク財を対象者に合わせてアレンジする技術を学ぶ。行事にあわせたプログラム作成、運営する技術を習得する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>様々なレク財を対象者にあわせてアレンジし行事のプログラムに組み込み企画し、運営できるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行事にあわせたプログラムの企画① 2. 行事にあわせたプログラムの企画① 3. コミュニケーションワークショップ① 4. コミュニケーションワークショップ② 5. 対象者にあわせた手遊び① 6. 対象者にあわせた手遊び② 7. 行事にあわせたプログラムの企画① 8. 行事にあわせたプログラムの企画② 9. 対象者にあわせたオノマトペ体操① 10. 対象者にあわせたオノマトペ体操② 11. 対象者にあわせたゲーム① 12. 対象者にあわせたゲーム② 13. 発表① 14. 発表② 15. 試験 			
<p>事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーションサービス 実施マニュアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 2. 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 3. 楽しさの追求を支えるための介入技術 <p>公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度20%・実技試験30% 試験50%</p> <p>上記の3領域の配分割合のより100点満点で評価し 60点以上を合格とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴一高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格一高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 福祉レクリエーションⅢ	授業の種類 演習		授業担当者 栗原美幸 / 寺田知生/杉田美瑛
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>総合的に福祉レクリエーションの介入技術（個人への介入方法・グループダイナミクスを活かした介入方法）や対象者と現場にあわせたレクリエーション活動のアレンジ方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開について個人への介入方法・グループダイナミクスを活かした介入方法等、演習形式で学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>作成したプログラムに対して、様々な介入技術を使い事業所等で実践する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉レクリエーション支援の重要なポイントの確認① 2 福祉レクリエーション支援の重要なポイントの確認② 3 レクプログラムプランニング演習①-集団援助プログラム- 4 レクプログラムプランニング演習②-集団援助プログラム- 5 障害者スポーツ 6 個人へのレクリエーション支援の構造と展開① 7 個人へのレクリエーション支援の構造と展開② 8 福祉レクリエーションワーカー外部試験(筆記試験)対策① 9 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験)対策② 10 福祉レクリエーションワーカー外部試験(筆記試験) 11 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験 集団) 12 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験 個別) 13 コミュニケーションワークショップ① 14 コミュニケーションワークショップ② 15 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 2. 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 3. 楽しさの追求を支えるための介入技術 <p>公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度20%・実技試験30% 筆記試験50%</p> <p>上記の3領域の配分割合のより100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p> <p>寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>			

授 業 概 要

授業科目名 ピアノ I	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕 保育の場での音楽活動を楽しく豊かにするために必要な音楽に関する基礎的な知識や技術を習得する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 ピアノによる演奏技術について学びながら音楽を表現する楽しさを知る。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 基礎的な音楽理論を習得する。保育の場で使用する楽曲を正しく、音楽的に表現するための器楽ピアノの基礎技能を習得する。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置① 2 ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置② 3 ピアノ実技の基礎 両手演奏① 4 ピアノ実技の基礎 両手演奏② 5 ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方① 6 ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方② 7 楽譜の読み方と演奏 大譜表① 8 楽譜の読み方と演奏 大譜表② 9 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号① 10 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号② 11 ピアノ実技のステップアップ 12 ピアノ実技のステップアップ 13 ピアノ実技のステップアップ 14 ピアノ実技のステップアップ 15 実技試験(必修課題より) 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 こどもと音楽表現 ポケットいっぱい<u>のうた</u></p>		<p>豊岡配本テキスト 教育芸術社</p>	<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・実技試験の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。 ・必修課題が合格していること、実技試験が60点以上であること。
<p>【担当講師】 濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名 ピアノⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕 保育の場での音楽活動を楽しく豊かにするために必要な音楽に関する基礎的な知識や技術を習得する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 歌唱及びピアノ等による演奏技術、伴奏の実際について学びながら音楽を表現する楽しさや喜びを知る。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 基礎的な音楽理論を習得する。保育の場で使用する楽曲を正しく、音楽的に表現するための歌唱法と、器楽(ピアノ等)の基礎技能を習得する。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 2 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 3 基礎練習、生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌い実践 4 基礎練習、季節に合わせた曲の理解と弾き歌いの実践 5 基礎練習、「ぼけっといっぱいのおうた」より(秋に関する曲)弾き歌いの実践(小テスト) 6 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 7 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 8 基礎練習、「ぼけっといっぱいのおうた」より(冬に関する曲)弾き歌いの実践(小テスト) 9 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 10 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 11 基礎練習、季節に合わせた曲の理解と弾き歌いの実践 12 基礎練習、「ぼけっといっぱいのおうた」より必修課題練習 13 「こどもと音楽表現」「ポケットいっぱいのおうた」より必修課題練習 14 必修課題、「ぼけっといっぱいのおうた」より(季節に関する曲)弾き歌いの実践(プレテ) 15 実技試験(必修課題より1曲、ポケットいっぱいのおうたより1曲弾き歌い) 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 こどもと音楽表現 ポケットいっぱいのおうた</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・実技試験の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。 ・必修課題が合格していること、実技試験が60点以上であること。 	
<p>【担当講師】 濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>			

授 業 概 要

授業科目名 ピアノⅢ	授業の種類 演習		授業担当者 濱本 紀美枝																																															
授業の回数 15回(学期ごとに試験あり)	時間数 30時間	配当学年 2年	配当時期 前期																																															
<p>〔授業の目的・ねらい〕 保育の場での音楽活動を楽しく豊かにするために必要な音楽に関する基礎的な知識や技術を習得する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 歌唱及びピアノ等による演奏技術、伴奏の実際について学びながら音楽を表現する楽しさや喜びを味わう。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 基礎的な音楽理論を習得する。保育の場で使用する楽曲を正しく、音楽的に表現するための歌唱法と、器楽(ピアノ等)の基礎技能を習得する。</p>																																																		
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">1年前期</th> <th style="width: 33%;">1年後期</th> <th style="width: 33%;">2年前期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 1.</td> <td></td> <td>1.</td> </tr> <tr> <td>2. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 2.</td> <td></td> <td>2.</td> </tr> <tr> <td>3. ピアノ実技の基礎 両手演奏① 3.</td> <td></td> <td>3.</td> </tr> <tr> <td>4. ピアノ実技の基礎 両手演奏② 4.</td> <td></td> <td>4.</td> </tr> <tr> <td>5. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方① 5.</td> <td></td> <td>5.</td> </tr> <tr> <td>6. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方② 6.</td> <td></td> <td>6.</td> </tr> <tr> <td>7. 楽譜の読み方と演奏 大譜表① 7.</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習</td> <td>7. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」</td> </tr> <tr> <td>8. 楽譜の読み方と演奏 大譜表② 8.</td> <td>8. から課題曲練習</td> </tr> <tr> <td>9. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号① 9.</td> <td></td> <td>9.</td> </tr> <tr> <td>10. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号② 10.</td> <td></td> <td>10.</td> </tr> <tr> <td>11. ピアノ実技のステップアップ 11.</td> <td></td> <td>11.</td> </tr> <tr> <td>12. ピアノ実技のステップアップ 12.</td> <td></td> <td>12.</td> </tr> <tr> <td>13. ピアノ実技のステップアップ 13.</td> <td></td> <td>13.</td> </tr> <tr> <td>14. ピアノ実技のステップアップ 14.</td> <td></td> <td>14.</td> </tr> <tr> <td>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</td> <td>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</td> <td>15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)</td> </tr> </tbody> </table>				1年前期	1年後期	2年前期	1. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 1.		1.	2. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 2.		2.	3. ピアノ実技の基礎 両手演奏① 3.		3.	4. ピアノ実技の基礎 両手演奏② 4.		4.	5. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方① 5.		5.	6. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方② 6.		6.	7. 楽譜の読み方と演奏 大譜表① 7.	「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習	7. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」	8. 楽譜の読み方と演奏 大譜表② 8.	8. から課題曲練習	9. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号① 9.		9.	10. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号② 10.		10.	11. ピアノ実技のステップアップ 11.		11.	12. ピアノ実技のステップアップ 12.		12.	13. ピアノ実技のステップアップ 13.		13.	14. ピアノ実技のステップアップ 14.		14.	15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)	15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)	15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)
1年前期	1年後期	2年前期																																																
1. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 1.		1.																																																
2. ピアノ実技の基礎 譜表と鍵盤位置 2.		2.																																																
3. ピアノ実技の基礎 両手演奏① 3.		3.																																																
4. ピアノ実技の基礎 両手演奏② 4.		4.																																																
5. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方① 5.		5.																																																
6. ピアノ実技の基礎と楽譜の読み方② 6.		6.																																																
7. 楽譜の読み方と演奏 大譜表① 7.	「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」 から課題曲練習	7. 「ポケットいっぱい」のうた」「音楽表現」																																																
8. 楽譜の読み方と演奏 大譜表② 8.		8. から課題曲練習																																																
9. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号① 9.		9.																																																
10. 楽譜の読み方と演奏 音楽用語と記号② 10.		10.																																																
11. ピアノ実技のステップアップ 11.		11.																																																
12. ピアノ実技のステップアップ 12.		12.																																																
13. ピアノ実技のステップアップ 13.		13.																																																
14. ピアノ実技のステップアップ 14.		14.																																																
15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)	15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)	15. 実技試験(必修課題、弾き歌い各1曲)																																																
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 こどもの指導法「音楽表現」 豊岡配本テキスト ポケットいっぱい」のうた 教育芸術社</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 出席状況・授業態度・実技試験の総合評価。 2/3以上の出席、総合評価60点以上であること。 必修課題が合格していること。</p>																																																
<p>【担当講師】 濱本紀美枝：職歴—ピアノ講師歴26年 資格—高等学校教諭1種(音楽)、中学校教諭1種(音楽)、小学校教諭2種</p>																																																		

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
保育実習指導 I A	演習		杉田美瑛・佐竹友美
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
8回(最終回は試験)	15時間	1年生	後期
【授業の目的・ねらい】 子どもたちと共に日常生活を過ごすことで、子どもたちの繰り広げる生の姿に触れ、その内側から保育・養育を経験し理解を深めるための事前準備を行なう。			
【授業全体の内容の概要】 保育士になりたいという意欲と若さを基礎に、実習を通して学ぶことの内容確認、記録や評価の仕方などを知る。また、現場で実際に出来る対応や技術を体得する。			
【授業終了時の達成課題(到達目標)】 保育実習とはどういうことなのか理解し、具体的に保育士という仕事の内容を体験するための事前準備を行なうことで目標と自信を持って実習に臨むことができる。			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 <ol style="list-style-type: none">1. 実習の意義と目的2. 実習の流れと内容3. 実習の実際-オリエンテーション依頼の電話-4. 実習の実際-保育所・こども園実習-5. 実習における言葉の表現6. 保育日誌の書き方7. 報告会8. 試験			
【使用テキスト・参考文献】 ・実習の日誌と指導案サポートブック ナツメ社 ・保育の学び スタートブック 萌文書林 「イラストで読む！幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK」 学陽書房		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・授業態度、試験、出席状況の総合評価。	
【担当講師】 佐竹友美:職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
保育実習指導 I B	演習		小林 栄
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
8回	15時間	2年生	前期
【授業の目的・ねらい】 <ul style="list-style-type: none">施設実習の意義や実習施設の概要などを理解し、自らの実習課題を明らかにする。実習の振り返りを通して、新たな課題や学習目標を明確にしていく。			
【授業全体の内容の概要】 <p>テキストを用いながら「施設実習の意義」「実習施設の種別と概要」理解し、実習計画を作成していく。また、実習を振り返り実習報告を行ない、自身の課題や学習目標を整理する。</p>			
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 <ul style="list-style-type: none">実習施設の概要や対象者、保育士の役割を理解する。実習での学びと課題を整理し、今後につなげる。			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 <ol style="list-style-type: none">施設実習の意義施設実習の基本的理解実習施設の種別と概要①実習施設の種別と概要②実習までに身につけておくこと実習を振り返る—実習報告①実習を振り返る—実習報告②試験			
【使用テキスト・参考文献】 <p>『施設実習 パーフェクトガイド』わかば社 実習の手引き</p>		【単位認定の方法及び基準】 <p>(試験やレポートの評価基準など) 授業態度(提出物等を含む)、実習に向けての取り組み姿勢、実習報告内容、試験などを総合的に評価する。</p>	
【担当講師】 <p>小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 保育実習指導Ⅱ	授業の種類 演習		授業担当者 佐竹 友美・杉田 美瑛
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>保育所の実習を通し、乳幼児への理解を深めるとともに保育士の役割や機能と職務について理解する。また保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解し保育を実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>乳幼児の理解及び保育所の役割や機能、保育士の職務などを理解し、具体的な指導計画立案の手順や内容を知る。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>実習を通し、子どもの発達及び保育所の役割や機能、保育士の職務について理解する。また、部分実習での体験と学びや実習指導案の書き方など、実際の指導を通して保育士としての必要な知識や力を身につける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者になるために 2. 実習から学ぶ教育・保育の実態 3. 実習の保育日誌 4. 部分実習指導計画案① 5. 部分実習指導計画案② 6. 部分実習指導計画案③ 7. 報告会 8. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>・実習の日誌と指導案サポートブック ナツメ社</p> <p>・ここがポイント！3法令ガイドブック-新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解のために-</p> <p style="text-align: right;">フレーベル館</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、出席状況の総合評価。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>佐竹友美: 職歴—中学校教諭(音楽)歴2年、幼稚園教諭歴15年 資格—小学校教諭1種、中学校教諭(音楽)、高等学校教諭1種(音楽)、幼稚園教諭2種、保育士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 保育・教職実践演習	授業の種類 演習		授業担当者 松山 千種
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>これまでに学んできた知識、技術と共に、実習を通じて得た力を合わせて確かな実践的指導力を身につける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>リスクマネジメントや特別支援教育などの演習課題で、これまでの学びを整理、再確認し学びを確かなものとしていく</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>保育現場に立つ前にこれまでの学びを振り返り、専門職としての自覚を持つ</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 履修カルテの記入 2. 学級経営について 3. 学級経営における臨床場面での教師の対応について 4. 事例研究 保育現場での対応 5. 特別支援教育 6. 幼保小連携への対応と連携 7. 保育指導案の作成 8. 履修カルテの記入・単位認定試験 9. 保育の形態について 10. 諸外国の保育方法 11. 協同的な学びへのプロセス 12. カリキュラムデザイン 13. バーチャル園のパンフレット作成 14. バーチャル園のパンフレット作成・発表 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>これまでの学びと保育者への歩み わかば社 ・保育・教職実践演習 豊岡テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価。 ・保護者支援のための、ロールプレイワークの実践 	
<p>【担当講師】</p> <p>松山千種: 職歴—保育士歴11年、児童館勤務歴8年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、レクリエーションインストラクター、児童厚生1級指導員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 社会福祉論	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 福祉実践の根底となる社会福祉の理念を学び、実践において必要な社会福祉の制度や動向を理解し、実践基盤の構築につなげていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 社会福祉の法的基盤や歴史の変遷を通して、社会福祉の理念と意義を学ぶ。また、社会福祉の制度などを理解し、権利擁護などの社会福祉の基盤を学ぶ。さらに、相談援助を中心とした専門技術を理解し、地域福祉の推進など現代の社会福祉の動向を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の歴史の変遷を理解するとともに、その意義や支援の視点を理解する。 ・社会福祉の制度とその仕組みについて理解する。 ・社会福祉における相談援助の意義と方法を理解する。 ・社会福祉における利用者の保護とその仕組みを理解する。 ・社会福祉の動向と課題について理解する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念と課題①－社会福祉の概念について法的基盤から学ぶ 2. 社会福祉の理念と課題②－福祉ニーズおよび社会参加とは何かを学ぶ 3. 社会福祉の理念と課題③－自立と平等の支援のあり方について学ぶ 4. 社会福祉の歴史の変遷①－社会福祉の歴史的な取り組みについて学ぶ 5. 社会福祉の歴史の変遷②－福祉的支援の担い手について学ぶ 6. 社会福祉と各分野の福祉－社会福祉と各分野の福祉とのつながりと、支援の基本的な考え方について学ぶ 7. 利用者の権利擁護－利用者の権利擁護とその実践について学ぶ 8. 社会福祉の制度①－社会福祉の法律について学ぶ 9. 社会福祉の制度②－社会福祉における国および地方公共団体の役割と実施機関について学ぶ 10. 社会保険－社会保険の内容について学ぶ 11. 利用者を保護する仕組み－社会福祉における利用者保護の仕組みについて学ぶ 12. 社会福祉の相談援助①－相談援助の意義と原則について学ぶ 13. 社会福祉の相談援助②－相談援助の方法と技術について学ぶ 14. 社会福祉の動向と課題－少子高齢化の課題と在宅福祉・地域福祉の推進を学ぶ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『生活事例からはじめる 社会福祉』青踏社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
文章表現	演習		小林 栄
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	1年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>実習において必要とされる文章表現を演習を通して理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>敬語や文法、文章の書き方等について基本的な知識を学び、演習を通して、記録やレジュメ、レポートを書く力や要点をまとめる力を身に付ける。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>適切な表現方法を用い、実習計画書及び記録、レジュメ等を書式に応じて記入できる技能を習得する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に必要な文章表現 2. 実習に必要な書類の書き方① 3. 実習に必要な書類の書き方② 4. 実習に必要な書類の書き方③ 5. 記録の書き方① 6. 記録の書き方② 7. 記録の書き方③ 8. 記録の書き方④ 9. 記録の書き方⑤ 10. お礼状の書き方 11. レジュメ及び実習報告原稿の書き方① 12. レジュメ及び実習報告原稿の書き方② 13. レジュメ及び実習報告原稿の書き方③ 14. レジュメ及び実習報告原稿の書き方④ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座10</p> <p style="padding-left: 2em;">「介護総合演習・介護実習」中央法規社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・授業態度、試験、提出物、出席状況の総合評価</p>	

授 業 概 要

授業科目名 ミュージックケア	授業の種類 演 習		授業担当者 宮川 深雪
授業の回数 8回(最終回は試験)	時間数 15 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期
<p>【授業の目的・ねらい】 介護の現場で、ケアの一環として音楽療法の概要を学び、ミュージック・ケアの理論と技術を身につけ、支援者として心のこもった実践ができるようにする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 1.ミュージック・ケアの理論を学ぶ。2.メソッドの基本曲を中心に目的と技術を習得する。 3.対象者のグループカウンセリング、心身のケアを実際にできるように習得する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 現場で、即、実践につながるような技術と支援ができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p style="padding-left: 40px;">介護コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ミュージック・ケアの理論と実際 2 楽曲習得①と実践プログラム 3 楽曲習得②と支援の方法 4 楽曲習得③と支援の方法 5 楽曲習得④と支援の方法 6 楽曲習得⑤と支援の方法 7 楽曲習得⑥とまとめ 8 介護コース試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『ミュージック・ケア その基本と実際』 宮本啓子 『だれでも・どこでも・いつでも』 磁場の会 『ミュージック・ケア 実技編』 日本ミュージック・ケア協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・実技試験・レポート提出・受講態度により評価する。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。</p>	
<p>【担当講師】 宮川深雪：職歴—ミュージックケア指導者歴19年 資格—介護福祉士、社会福祉士、保育士、介護支援専門員、日本ミュージックケア協会認定指導者</p>			

授 業 概 要

授業科目名 高齢者の生活と福祉	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
【授業の目的・ねらい】 高齢者の動向と生活実態について理解し、高齢者福祉及び高齢者の権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を学ぶ。			
【授業全体の内容の概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を理解する内容。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容。 			
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の動向と生活実態について理解する。 ・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を理解する。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。 			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の動向と生活実態—高齢者の社会的理解① 2. 高齢者の動向と生活実態—高齢者の社会的理解② 3. 介護保険制度創設の背景と目的—介護保険制度の動向① 4. 介護保険制度創設の背景と目的—介護保険制度の動向② 5. 介護保険制度のしくみの基礎的理解① 6. 介護保険制度のしくみの基礎的理解② 7. 介護保険制度のしくみの基礎的理解③ 8. 介護保険制度のしくみの基礎的理解④ 9. 介護保険制度における組織・団体の機能と役割① 10. 介護保険制度における組織・団体の機能と役割② 11. 介護保険制度における専門職の役割① 12. 介護保険制度における専門職の役割② 13. 介護実践に関連する諸制度—高齢者虐待防止法の基礎的理解① 14. 介護実践に関連する諸制度—高齢者虐待防止法の基礎的理解② 15. 試験 			
【使用テキスト・参考文献】 『最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規 ※「障がい者の生活と福祉」と同じ		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。	
【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
レクリエーションの基本	演習		杉田 美瑛
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30 時間	1年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>心を元気にするというレクリエーションの主旨を基に楽しさや心地よさを活用して人々を支援するための考え方や技術を学び、レクリエーション支援の基礎を理解・体得し、レクリエーションの意義を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>レクリエーション概論、心の元気づくりの理論、レク支援の理論、レク支援方法を理論と実技を織り交ぜながら手段であるレク活動を有効に活用するための技術について学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>レクリエーション支援と手段としてのレクリエーション活動について学び、人の心の理論を根拠に、ホスピタリティを通したコミュニケーション技法とアイスブレイキングの技術を基に対象者主体のレクリエーション活動を行える支援者となる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに:アイスブレイキング体験 2. レクリエーション概論 3. 楽しさと心の元気づくりの理論 4. レクリエーション支援の理論:第1節 5. レクリエーション支援の方法:第1節・ホスピタリティ 6. レクリエーション支援の理論:第2節 7. レクリエーション支援の方法:第2節・アイスブレイキング 8. レクリエーション支援の理論:第3節 9. レクリエーション支援の方法:第3節・ハードル設定とCSSプロセス 10. 安全管理の方法 11. レクリエーション活動の習得・演習Ⅰ 12. レクリエーション活動の習得・演習Ⅱ 13. レクリエーション活動の習得・演習Ⅲ 14. レクリエーション支援のプログラムの立案 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>楽しさをおとした心の元気づくり レクリエーション支援の基本の理論と方法 レクリエーション・インストラクターテキスト (財)日本レクリエーション協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・演習・試験・提出物の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を与える。 ・レク・インストラクターの資格試験を兼ねる。 	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
コミュニケーション技術 I	演 習		寺田 知生
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15 回(最終回は試験)	30 時間	1年	前 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕 対人援助におけるコミュニケーション技術の基礎を学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 コミュニケーションの意義・目的を講義し、グループワークや演習、テキストを用いながら授業を行う。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 基礎のコミュニケーション技術や知識を習得できる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護におけるコミュニケーションの基本 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 3. コミュニケーションの基本技術 4. コミュニケーションの基本技術 5. コミュニケーション障害への対応 6. 小テスト 7. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 8. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 9. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 10. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 11. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 12. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 13. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 14. まとめ 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) ・2/3以上の出席。 ・定期試験・授業態度の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
生活援助	演習		浅田 ひとみ
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	1年生	前 期
<p>【授業の目的・ねらい】 日常における基本的な食の知識を身につけ、現場での実践力を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 生活支援技術 I を基に食生活の基本知識を学習し、同時に調理実習・試食を行い、国家資格取得をめざす。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 正しい栄養・調理の知識を習得し、利用者の身体と心の栄養を配慮できる人材に育成する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】 生活支援技術 I を基に下記予定にて講義学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1～2回 栄養の理解① 第3～4回 栄養の理解② 第5～6回 献立の立て方 第7～8回 食品購入と選択・食品衛生 第9～10回 調理の基本・食品の調理性 第11～12回 高齢者・障害者の食事と調理 第13～14回 疾患と食事・まとめテスト・解説 第15回 試験 <p>また調理実習も同時に行い、調理技術も学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1～2回 和風総菜①(人参ごはん・肉じゃが・油揚げと青菜の味噌汁) 第3～4回 洋風総菜①(魚のカレーソースかけ・かき玉スープ・グレープフルーツゼリー・コーヒーゼリー) 第5～6回 中華総菜①(八宝菜・ポテトサラダ) 第7～8回 和風総菜②(高野豆腐の含め煮・あさりのみそ汁・ミルクきな粉もち) 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 介護福祉養成講座6 生活支援技術 I (中央法規) * 2020介護福祉士国家試験受験ワークブック (中央法規) * 浅田クッキングスクール・レシピ集 		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト及び出席状況、授業態度 レポートなどで総合評価 	
<p>【担当講師】 浅田容子：職歴—料理教室講師歴54年 資格—調理師</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
こころとからだのしくみ I	講義		小林 栄
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15 回(最終回は試験)	30 時間	1年生	前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能およびケアの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>人のこころやからだのしくみに関する基本的な医学的知識を根拠を持って理解できるよう指導する。それを介護の視点で生かすことができるよう「生活支援技術」と連動して進めていく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>こころとからだの両面から利用者の状態を見てその状態がどのような要因から引き起こされているのか根拠となる知識を習得する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康」とは何か 2. こころのしくみを理解する① 3. こころのしくみを理解する② 4. こころのしくみを理解する③ 5. からだのしくみを理解する① 6. からだのしくみを理解する② 7. からだのしくみを理解する③ 8. からだのしくみを理解する④ 9. 身じたくに関連したしくみ① 10. 身じたくに関連したしくみ② 11. 身じたくに関連したしくみ③ 12. 移動に関連したしくみ① 13. 移動に関連したしくみ② 14. 移動に関連したしくみ③ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 14 「こころとからだのしくみ」中央法規 「からだの事典」 成美堂出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
人間関係とコミュニケーション I	演習		水野 正伸
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回	30時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を学ぶ。 ・対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を学ぶ。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権思想と、福祉理念の歴史の変遷 ・人間の尊厳と、人権尊重及び権利擁護の考え方 ・自立の意味と、本人主体の観点からの尊厳の保持や自己決定の考え方 ・人間関係の形成に必要な心理的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能の理解 <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の理解を基礎としての尊厳の保持と自立を理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を修得する。 ・対人援助に必要な関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的知識を修得する。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳と人権・福祉理念－人間の尊厳と利用者主体 2. 人間の尊厳と人権・福祉理念－人権思想の潮流とその具現化 3. 人間の尊厳と人権・福祉理念－社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 4. 人間の尊厳と人権・福祉理念－人権や尊厳に関する日本の諸規定、人権尊重と権利擁護 5. 自立のあり方－自立の概念と多様性 6. 自立のあり方－要介護者の尊厳と自立、自立支援の必要性 7. 人間と人間関係－自分と他者の認識のずれについて考える 8. 人間と人間関係－少数派が集団を変えるために必要なことを考える 9. 対人関係におけるコミュニケーション－関係性によるあいさつの違いに含まれるメッセージについて考える 10. 対人関係におけるコミュニケーション－非言語の種類とメッセージについて考える 11. 対人援助関係とコミュニケーション－傾聴について考える 12. 対人援助関係とコミュニケーション－バイステックの7つの原則について考える 13. 組織におけるコミュニケーション－組織のコミュニケーションについて考える 14. 組織におけるコミュニケーション－ブレインストーミングをやる 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 障がい者の生活と福祉	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 障がい者を取り巻く社会情勢と生活実態を理解し、障害者福祉及び障害者の権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者を取り巻く社会情勢と生活実態を理解する内容。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容。 ・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援制度の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を理解する内容。 </p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者を取り巻く社会情勢と生活実態について理解する。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。 ・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援制度の内容を理解する。 </p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい児・者を取り巻く社会情勢と生活実態① 2. 障がい児・者を取り巻く社会情勢と生活実態② 3. 障がい児・者を取り巻く社会情勢と生活実態③ 4. 介護実践に関連する諸制度－障害者虐待防止法の基本的理解 5. 介護実践に関連する諸制度－障害者差別解消法の基本的理解 6. 障害者総合支援制度創設の背景と目的① 7. 障害者総合支援制度創設の背景と目的② 8. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解① 9. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解② 10. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解③ 11. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解④ 12. 障害者総合支援制度のしくみの基本的理解⑤ 13. 障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割① 14. 障害者総合支援制度における組織、団体の機能と役割② 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解』中央法規 ※「高齢者の生活と福祉」と同じ</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テストの結果、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ	授業の種類 演 習		授業担当者 水嶋 美和
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 後 期
〔授業の目的・ねらい〕 介護の現場では、さまざまな専門職がチームを形成し、総合力で利用者の生活を支えている。利用者やその家族、他職種協働におけるチームのコミュニケーション能力を身に付けるために必要な知識と方法を学ぶ。その他、記録の活用がケアの質向上につながることを理解するとともに、正しく記録を書けるようになることを目的とする。			
〔授業全体の内容の概要〕 「チームにおけるコミュニケーション」「記録の技術」「会議及び事例検討に関する技術」などについて、テキストを用いながらワークを取り入れ学ぶ。			
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員間および他職種(専門職)間で協働的な関係を築くことができる。 ・記録の意義・目的について理解し、正しい書き方で記録ができる。 ・チームで一つの目的を達成するためのコミュニケーションについて理解することができる。 			
〔授業のテーマ・内容・授業方法〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とのコミュニケーション 2. 家族とのコミュニケーション 3. チームのコミュニケーションとは 4. 報告・連絡・相談の技術 5. 記録の技術 6. 記録の技術 7. 会議・事例検討に関する技術 8. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 9. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 10. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 11. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 12. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 13. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 14. 介護におけるチームのコミュニケーション 演習 15. 試験 			
〔使用テキスト・参考文献〕 『最新介護福祉士養成講座5 第2版 コミュニケーション技術』中央法規出版		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・授業態度(小テストや提出物等を含む)と試験の総合評価とする。 	
【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了			

授 業 概 要

授業科目名 福祉レクリエーション I	授業の種類 演習		授業担当者 辻岡 世紀子
授業の回数 15 回(最終回は試験)	時間数 30 時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>福祉の現場で行うレク支援のためのハードル設定、SSSプロセスなどのレクリエーションの支援技術習得と、その支援技術を対象者に安心して参加してもらう為の提供の方法を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>対象者に合わせたレク活動を選択し、活動現場にあわせたプログラムの立案を作成すること。プログラミングしたものを対象者との相互のかかわりの中で活かせる支援技術が身につくように演習を行い、人の心の理論とレク技術を合わせることで理解を通じたレク技術を向上させる。また、心が元気になるようなCSSプロセスに基づいての支援方法等の技術を習得させる。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>対象者に合わせたプログラム作成をもとに、心が元気になるレク活動の選択とレク支援が実践できるようにする。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーション活動の習得 I 2. レクリエーション活動の習得 II 3. レクリエーション活動の習得 III 4. レクリエーション活動の習得 IV 5. CSSプロセスに基づいた支援法 I 6. CSSプロセスに基づいた支援法 II 7. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開体験 8. 小集団の相互作用を活かしたプログラム立案 9. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 I 10. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 II 11. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 III 12. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 IV 13. 小集団の相互作用を活かしたレクリエーションの活動の展開 V 14. レクリエーション支援の理論確認 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しさをおとした心の元気づくり ・心の力を育む魔法のコツとお勧めメニュー 30+9 <ol style="list-style-type: none"> ① 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 ② 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 ③ 楽しさの追求を支えるための介入技術 <p style="text-align: center;">公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内試験、出席状況、受講態度、課題提出などの 総合評価とする。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上で単位を認定する。 <p>※福祉レクワーカー資格取得は、学内試験とは別に 日本レクリエーション協会が実施する筆記試験・ 実技試験(個別・集団援助)を受験する。 実技試験は学外試験と兼ねる。</p>	
<p>【担当講師】 辻岡世紀子:職歴—保育士歴29年、レクリエーション・インストラクター養成講習会講師歴26年 資格—保育士、幼稚園教諭2種、日本レクリエーション協会公認指導者</p>			

授 業 概 要

授業科目名 介護過程 I	授業の種類 講 義		授業担当者 水嶋 美和		
授業の回数 30 回(最終回は試験)	時間数 60 時間	配当学年 1年	配当時期 後 期		
<p>【授業の目的・ねらい】 介護過程 I IIを通し、介護過程の意義を理解し、尊厳の保持、自立支援に沿ったアセスメントおよび介護計画の立案・実施・評価の一連の思考過程を理解する。 したがって介護過程 I では、介護過程の意義目的を理解する。また生活上の課題を見出すために、どのように人を理解していくのか等を考えながら、アセスメント力を高める。ここでは、情報収集の方法を習得しながら、情報読み取る力、情報の持つ意味を考える力、利用者の立場に立ちながら、生活上の課題を考える力を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 パワーポイントを用い介護過程の展開の方法を講義する。 実習体験や事例、グループワークを通し、介護過程の展開を理解できるよう工夫する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護過程(思考過程)を理解し、アセスメント力を高める。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程の意義と目的 2. 介護過程の展開における基本視点 3. 思考過程とはなにか 4. 客観的思考 科学的思考とは何か 5. 介護観について 6. ICFと介護過程 7. アセスメントとは 8. 観察とは 9. 情報収集の手段 10. 情報収集の手段 11. 情報を整理する 12. 事例に基づきアセスメントを行う 13. 事例に基づきアセスメントを行う 14. 事例に基づきアセスメントを行う 15. 介護過程におけるニーズとは </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 目標とは 17. 目標設定の留意点 18. 一連の展開について説明する 19. 事例に基づき介護過程の展開を行う 20. 事例に基づき介護過程の展開を行う 21. 事例に基づき介護過程の展開を行う 22. 事例に基づき介護過程の展開を行う 23. 事例に基づき介護過程の展開を行う 24. 事例に基づき介護過程の展開を行う 25. 事例に基づき介護過程の展開を行う 26. 事例に基づき介護過程の展開を行う 27. 事例に基づき介護過程の展開を行う 28. 事例に基づき介護過程の展開を行う 29. 事例に基づき介護過程の展開を行う 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程の意義と目的 2. 介護過程の展開における基本視点 3. 思考過程とはなにか 4. 客観的思考 科学的思考とは何か 5. 介護観について 6. ICFと介護過程 7. アセスメントとは 8. 観察とは 9. 情報収集の手段 10. 情報収集の手段 11. 情報を整理する 12. 事例に基づきアセスメントを行う 13. 事例に基づきアセスメントを行う 14. 事例に基づきアセスメントを行う 15. 介護過程におけるニーズとは 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 目標とは 17. 目標設定の留意点 18. 一連の展開について説明する 19. 事例に基づき介護過程の展開を行う 20. 事例に基づき介護過程の展開を行う 21. 事例に基づき介護過程の展開を行う 22. 事例に基づき介護過程の展開を行う 23. 事例に基づき介護過程の展開を行う 24. 事例に基づき介護過程の展開を行う 25. 事例に基づき介護過程の展開を行う 26. 事例に基づき介護過程の展開を行う 27. 事例に基づき介護過程の展開を行う 28. 事例に基づき介護過程の展開を行う 29. 事例に基づき介護過程の展開を行う 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程の意義と目的 2. 介護過程の展開における基本視点 3. 思考過程とはなにか 4. 客観的思考 科学的思考とは何か 5. 介護観について 6. ICFと介護過程 7. アセスメントとは 8. 観察とは 9. 情報収集の手段 10. 情報収集の手段 11. 情報を整理する 12. 事例に基づきアセスメントを行う 13. 事例に基づきアセスメントを行う 14. 事例に基づきアセスメントを行う 15. 介護過程におけるニーズとは 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 目標とは 17. 目標設定の留意点 18. 一連の展開について説明する 19. 事例に基づき介護過程の展開を行う 20. 事例に基づき介護過程の展開を行う 21. 事例に基づき介護過程の展開を行う 22. 事例に基づき介護過程の展開を行う 23. 事例に基づき介護過程の展開を行う 24. 事例に基づき介護過程の展開を行う 25. 事例に基づき介護過程の展開を行う 26. 事例に基づき介護過程の展開を行う 27. 事例に基づき介護過程の展開を行う 28. 事例に基づき介護過程の展開を行う 29. 事例に基づき介護過程の展開を行う 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】 中央法規 最新介護福祉全書 第9巻「介護過程」(第2版) 参考文献 さまざまな事例を用いる</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・2/3以上の出席。 ・筆記試験、授業態度、提出物等の総合評価とする。</p>			
<p>【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>					

授 業 概 要

授業科目名 発達と老化の理解 I	授業の種類 講義		授業担当者 マイヤー 瞳
授業の回数 15 回(最終回は試験)	時間数 30 時間	配当学年 1年生	配当時期 後期
【授業の目的・ねらい】 <p>人の成長・発達する過程を理解し、老年期における心身や機能的変化および特徴に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とする。</p>			
【授業全体の内容の概要】 <p>老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的・精神的・社会的側面から捉え、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識について概説する。</p>			
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 <p>加齢に伴う成熟の特徴と失われていく機能の特徴、発達課題を理解する。また、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、支援技術の根拠となる知識を身に付ける。</p>			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達とは 2. 人間の発達段階と発達課題 3. 発達と個人差 4. 老化とは 5. 老年期の発達課題の留意点 6. 老化が及ぼす心理的影響 7. 老いの価値観・受容 8. 高齢者の心の問題と精神障害 9. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活① 10. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活② 11. 老化に伴う知的機能の変化と日常生活 12. 高齢者の症状・疾患の特徴 13. 高齢者に多い症状・訴えと留意点① 14. 高齢者に多い症状・訴えと留意点② 15. 試験 			
【使用テキスト・参考文献】 新・介護福祉士養成講座11・14 「発達と老化の理解」 中央法規出版 プリント配布		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。	
【担当講師】 マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師			

授 業 概 要

授業科目名 認知症の理解 I	授業の種類 講 義		授業担当者 水嶋 美和
授業の回数 15 回(最終回は試験)	時間数 30 時間	配当学年 1年生	配当時期 後 期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や当事者からの視点から、それぞれの原因疾患に応じた特性があることを理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>認知症の原因疾患や原因疾患に応じた特性、その他、認知症に関する医学的な基礎的知識、認知症の人の心理について学び、その人の特性に応じた支援を行う際に必要な基礎知識を理解する内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>認知症の歴史を踏まえ、現在の認知症ケアの理念について考え、意識して取り組むことができるようになる。また、認知症の特性について医学・行動・心理・生活面からの理解ができ、原因疾患に応じたケアの方法を考えることができるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアの理念と視点 2. 認知症ケアの理念作成 3. 認知症の人の理解 4. 認知症を取り巻く状況と歴史 5. 認知症の知識(医学的側面から見た認知症の基礎) 6. 認知症の知識(医学的側面から見た認知症の基礎) 7. 認知症の知識(認知症の原因疾患) 8. 認知症の知識(認知症の原因疾患) 9. 認知症の知識(検査・治療・予防) 10. 認知症の人の体験の理解 11. 認知症の人の体験の理解 12. 認知症の人への対応(介護の原則) 13. 認知症の人への対応(アセスメント) 14. まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座13 「認知症の理解」中央法規社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
こころとからだのしくみⅡ	講義		小林 栄
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
15回(最終回は試験)	30時間	1年生	後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護ケアの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>生活支援を行う際に必要となる、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。また、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、心身の状況に応じた支援を行う際に必要な基礎知識を理解する内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>こころとからだの両面から利用者の状態を見てその状態がどのような要因から引き起こされているのか根拠となる知識を習得する。そこから利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事に関連したしくみ① 2. 食事に関連したしくみ② 3. 食事に関連したしくみ③ 4. 入浴・清潔保持に関連したしくみ① 5. 入浴・清潔保持に関連したしくみ② 6. 入浴・清潔保持に関連したしくみ③ 7. 排泄に関連したしくみ① 8. 排泄に関連したしくみ② 9. 排泄に関連したしくみ③ 10. 睡眠に関連したしくみ① 11. 睡眠に関連したしくみ② 12. 死にゆく人に関連したしくみ① 13. 死にゆく人に関連したしくみ② 14. 死にゆく人に関連したしくみ③ まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」中央法規 「からだの事典」 成美堂出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】</p> <p>小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
介護概論	講義		寺田 知生		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30回(最終回は試験)	60時間	1年生	通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護の目的、定義、歴史、介護福祉を取り巻く現状、倫理、制度、諸問題等介護の基本的理論を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>介護の基本となる介護の目的、定義、歴史、介護福祉を取り巻く現状、倫理、制度について、グループワークや演習、テキストに沿って授業を進める。 DVDなどの視聴覚教材を用いながら、利用者理解、介護サービスの理解に結びつける。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護福祉士の専門性について総合的に理解することを目標とする。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(日本の社会の状況) 2. 介護福祉士を取り巻く状況 3. 介護福祉の歴史 4. 社会福祉士および介護福祉士法 5. 介護福祉を支える団体 6. 章末テスト 7. 介護における自立支援の概念 8. 介護におけるノーマライゼーションの理念 9. ケアワークの定義 10. リハビリテーションの定義 11. 対人援助技術の原則と方法の尊重 12. 章末テスト 13. 介護の専門職と倫理 14. 介護の専門職と倫理 15. 前期まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護保険制度の概要 17. 生活を支えるサービス 18. 地域支援事業 19. 障害者総合支援法のサービスについて 20. 章末テスト 21. 多職種連携 22. 地域連携 23. 居住の整備 24. 章末テスト 25. 介護における安全の意義 26. 感染対策 27. 健康管理の意義と目的 28. からだとこころの健康管理 29. 後期のまとめ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・定期試験・授業態度の総合評価とする。 			
<p>【担当講師】 寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名 生活支援技術 I	授業の種類 演習		授業担当者 寺田 知生		
授業の回数 30 回(最終回は試験)	時間数 60 時間	配当学年 1年	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>利用者の尊厳を尊重し、基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、さまざまな介護場面において適切に実践できる能力を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>基本的な介護技術の目的・留意点を講義し、演習にて基本的技術を習得できるよう授業を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>心身の状況に応じた介護を提供できるよう介護技術の基本となる知識・技術を習得する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(生活支援技術とは) 2. ボディメカニクスと介護の言葉 3. 移動の介護 4. 実技 車椅子の操作方法 5. 実技 ベッドメイキング 6. 実技 ベッド上の移動 座位 立位 7. 実技 確認試験 8. 身支度の介護 9. 口腔ケアの意義・目的 10. 実技 更衣 11. 実技 更衣 12. 食事の介護 13. 食事の介助方法 14. 前期のまとめ 15. 実技試験 更衣 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 16. 安楽な体位 17. 実技 安楽な体位 18. 実技 安楽な体位 19. 入浴の意義・目的 20. 入浴介助の留意点 21. 排泄の意義 失禁のメカニズム 22. 排泄介助の留意点 23. 実技 排泄介助 24. 実技 排泄介助 25. 実技試験 排泄 26. 実技 排泄介助 27. 実技 排泄介助 28. 実技試験 排泄 29. まとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ul style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(生活支援技術とは) 2. ボディメカニクスと介護の言葉 3. 移動の介護 4. 実技 車椅子の操作方法 5. 実技 ベッドメイキング 6. 実技 ベッド上の移動 座位 立位 7. 実技 確認試験 8. 身支度の介護 9. 口腔ケアの意義・目的 10. 実技 更衣 11. 実技 更衣 12. 食事の介護 13. 食事の介助方法 14. 前期のまとめ 15. 実技試験 更衣 	<ul style="list-style-type: none"> 16. 安楽な体位 17. 実技 安楽な体位 18. 実技 安楽な体位 19. 入浴の意義・目的 20. 入浴介助の留意点 21. 排泄の意義 失禁のメカニズム 22. 排泄介助の留意点 23. 実技 排泄介助 24. 実技 排泄介助 25. 実技試験 排泄 26. 実技 排泄介助 27. 実技 排泄介助 28. 実技試験 排泄 29. まとめ 30. 試験
<ul style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要(生活支援技術とは) 2. ボディメカニクスと介護の言葉 3. 移動の介護 4. 実技 車椅子の操作方法 5. 実技 ベッドメイキング 6. 実技 ベッド上の移動 座位 立位 7. 実技 確認試験 8. 身支度の介護 9. 口腔ケアの意義・目的 10. 実技 更衣 11. 実技 更衣 12. 食事の介護 13. 食事の介助方法 14. 前期のまとめ 15. 実技試験 更衣 	<ul style="list-style-type: none"> 16. 安楽な体位 17. 実技 安楽な体位 18. 実技 安楽な体位 19. 入浴の意義・目的 20. 入浴介助の留意点 21. 排泄の意義 失禁のメカニズム 22. 排泄介助の留意点 23. 実技 排泄介助 24. 実技 排泄介助 25. 実技試験 排泄 26. 実技 排泄介助 27. 実技 排泄介助 28. 実技試験 排泄 29. まとめ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>中央法規 最新介護福祉全書 第6巻「生活支援技術 I」(第2版) 最新介護福祉全書 第7巻「生活支援技術 II」(第2版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・2/3以上の出席。 ・筆記試験については60点以上 実技については実技試験にて基準を満たすこと 上記の総合評価によって単位を認定する。</p>			
<p>【担当講師】</p> <p>寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名 介護総合演習 I	授業の種類 演 習		授業担当者 寺田 知生		
授業の回数 30 回(最終回は試験)	時間数 60 時間	配当学年 1年	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護実習の意義、目的について理解し、実習における準備(書類作成や心構え)、実習中(実習目標の設定、記録やカンファレンスの実施)、実習後の振り返りなどを通し、利用者理解、サービス事業所・施設の理解に努める。また実習を振り返り、自分自身の課題を明確にする機会とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>介護実習の意義、事業所の概要、介護実習の心構えを講義する。 実習前の準備や確認、実習中の指導、実習後の振り返る機会を作る。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護実習の意義について理解し、介護に必要な知識、技術を活かすことができる。実習後の課題を明確にし、介護実習Ⅱへ向けて自己の課題の確認ができることを目標とする。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. お礼状作成 13. 介護実習 I Aの振り返り 14. 介護実習 I Aの振り返り 15. 介護実習 I Aの振り返り </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 介護実習 I Bの事業所の理解 17. 介護実習 I Bの事業所の理解 18. 介護実習 I Bの事業所の理解 19. 介護実習 I Bの準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I Bの準備 23. お礼状 24. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 25. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 26. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 27. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 28. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 29. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. お礼状作成 13. 介護実習 I Aの振り返り 14. 介護実習 I Aの振り返り 15. 介護実習 I Aの振り返り 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護実習 I Bの事業所の理解 17. 介護実習 I Bの事業所の理解 18. 介護実習 I Bの事業所の理解 19. 介護実習 I Bの準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I Bの準備 23. お礼状 24. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 25. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 26. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 27. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 28. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 29. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の意義と目的 2. 介護実習 I の概要 3. 生活の場・利用者の理解 4. 記録について 5. 記録について 6. 記録について 7. 記録について 8. 実習の心構え 9. 実習指導者とのオリエンテーション 10. カンファレンス/お礼状の書き方 11. 実習担当教員との確認 12. お礼状作成 13. 介護実習 I Aの振り返り 14. 介護実習 I Aの振り返り 15. 介護実習 I Aの振り返り 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護実習 I Bの事業所の理解 17. 介護実習 I Bの事業所の理解 18. 介護実習 I Bの事業所の理解 19. 介護実習 I Bの準備 20. 実習指導者とのオリエンテーション 21. 実習担当教員との打ち合わせ 22. 介護実習 I Bの準備 23. お礼状 24. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 25. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 26. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 27. 介護実習 I Bの振り返り(報告会) 28. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 29. 介護実習Ⅱの報告会から学ぶ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規社</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・2/3以上の出席。 ・筆記試験・提出物・ボランティアへの参加・授業態度の総合評価とする。</p>			
<p>【担当講師】 寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名 介護実習 I	授業の種類 実習		授業担当者 介護専任		
授業の回数	時間数 160 時間	配当学年 1年生	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】 様々な生活の場において、コミュニケーションの実践、介護技術の確認、対人援助におけるマナー等を習得し、個々の目標達成に向け課題を明確にし、実践する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実習 I a(老人福祉施設、老人保健施設のいずれか)および介護実習 I b(通所介護、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護のいずれか)で実習を行う。 ・介護実習目標に沿って、指導者のスーパービジョンを受けながら主体的に実習に取り組む。 ・多くの利用者と出会い、介護を必要とする人の理解およびその必要な技術を習得する。 ・実習では疑問を言語化、文章化し、解決に努力する。 ・さまざまな暮らしの場を理解できる。 以上の内容について、学生が自主的に取り組んでいく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ・利用者の状態、状況を把握し、個々に応じた介護の知識、技術を理解・実践できる。 ・介護業務内容を理解し、目標に沿った介護行動の実際や利用者の反応、結果や考察を記録できる。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%; border: none; vertical-align: top;"> <p>配属実習</p> <p>①介護実習 I a(80時間)を入所施設にて実習を行う。</p> <p>②介護実習 I b(80時間)を居宅サービスおよび地域密着型サービス(指定介護老人福祉施設を除く)で実習を行う。</p> </td> <td style="border: none; vertical-align: top;"> <p>指定規則第五条第一項第十四号イに規定する厚生労働大臣が別に定めるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉法に規定する老人居宅生活支援事業並びに老人デイサービスセンター、老人短期入所施設、養護老人ホーム及び特別養護老人ホーム ・介護保険法に規定する指定居宅サービス(訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、福祉用具貸与及び特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所、指定地域密着型サービスを行う事業所、指定施設サービスを行う施設、指定介護予防サービス(介護予防訪問リハビリテーション、介護予防居宅療養管理指導、介護予防福祉用具貸与及び介護予防特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所及び指定介護予防地域密着型サービスを行う事業所 ・障害者総合支援法に規定する障害福祉サービス事業及び障害者支援施設 </td> </tr> </table>				<p>配属実習</p> <p>①介護実習 I a(80時間)を入所施設にて実習を行う。</p> <p>②介護実習 I b(80時間)を居宅サービスおよび地域密着型サービス(指定介護老人福祉施設を除く)で実習を行う。</p>	<p>指定規則第五条第一項第十四号イに規定する厚生労働大臣が別に定めるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉法に規定する老人居宅生活支援事業並びに老人デイサービスセンター、老人短期入所施設、養護老人ホーム及び特別養護老人ホーム ・介護保険法に規定する指定居宅サービス(訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、福祉用具貸与及び特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所、指定地域密着型サービスを行う事業所、指定施設サービスを行う施設、指定介護予防サービス(介護予防訪問リハビリテーション、介護予防居宅療養管理指導、介護予防福祉用具貸与及び介護予防特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所及び指定介護予防地域密着型サービスを行う事業所 ・障害者総合支援法に規定する障害福祉サービス事業及び障害者支援施設
<p>配属実習</p> <p>①介護実習 I a(80時間)を入所施設にて実習を行う。</p> <p>②介護実習 I b(80時間)を居宅サービスおよび地域密着型サービス(指定介護老人福祉施設を除く)で実習を行う。</p>	<p>指定規則第五条第一項第十四号イに規定する厚生労働大臣が別に定めるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉法に規定する老人居宅生活支援事業並びに老人デイサービスセンター、老人短期入所施設、養護老人ホーム及び特別養護老人ホーム ・介護保険法に規定する指定居宅サービス(訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、福祉用具貸与及び特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所、指定地域密着型サービスを行う事業所、指定施設サービスを行う施設、指定介護予防サービス(介護予防訪問リハビリテーション、介護予防居宅療養管理指導、介護予防福祉用具貸与及び介護予防特定福祉用具販売を除く。)を行う事業所及び指定介護予防地域密着型サービスを行う事業所 ・障害者総合支援法に規定する障害福祉サービス事業及び障害者支援施設 				
<p>【使用テキスト・参考文献】 実習の手引き、介護総合演習 I テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/5以上の出席。 ・実習態度、実習記録など実習施設による総合評価に基づき、実習担当教員の協議により総合的に判定する。 			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
障がいの理解	講義		小林 栄		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30回(最終回は試験)	60時間	1年生	通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>障害の基礎的理解として障害の概念・障害者福祉の基本理念を学び、障害のある人の生活や障害種別の理解をしようとして、その根拠となる知識を習得することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>障害の概念については「人間と社会」と関連づけながら進めていく。医学的側面からの基礎知識としてそれぞれの障害について、その症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を「生活支援技術」と関連づけて理解できるよう留意する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>障害のある人の心理や基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念① 2. 障害の概念② 3. 障害者福祉の基本理念① 4. 障害者福祉の基本理念② 5. 障害者福祉に関連する制度 6. 肢体不自由のある人の生活① 7. 肢体不自由のある人の生活② 8. 視覚障害のある人の生活 9. 聴覚・言語障害のある人の生活 10. 重複障害のある人の生活 11. 知的障害のある人の生活 12. 精神障害のある人の生活 13. 高次脳機能障害のある人の生活 14. 発達障害のある人の生活 15. まとめ 小テスト </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 心臓機能障害のある人の生活 17. 呼吸機能障害のある人の生活 18. 腎臓機能障害のある人の生活 19. 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 20. 小腸機能障害のある人の生活 21. HIVによる免疫機能障害のある人の生活 22. 肝臓機能障害のある人の生活 23. 重症心身障害のある人の生活 24. 難病のある人の生活 25. 地域におけるサポート体制 26. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携 27. 社会資源の利用と開発 28. 家族への支援 29. まとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念① 2. 障害の概念② 3. 障害者福祉の基本理念① 4. 障害者福祉の基本理念② 5. 障害者福祉に関連する制度 6. 肢体不自由のある人の生活① 7. 肢体不自由のある人の生活② 8. 視覚障害のある人の生活 9. 聴覚・言語障害のある人の生活 10. 重複障害のある人の生活 11. 知的障害のある人の生活 12. 精神障害のある人の生活 13. 高次脳機能障害のある人の生活 14. 発達障害のある人の生活 15. まとめ 小テスト 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 心臓機能障害のある人の生活 17. 呼吸機能障害のある人の生活 18. 腎臓機能障害のある人の生活 19. 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 20. 小腸機能障害のある人の生活 21. HIVによる免疫機能障害のある人の生活 22. 肝臓機能障害のある人の生活 23. 重症心身障害のある人の生活 24. 難病のある人の生活 25. 地域におけるサポート体制 26. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携 27. 社会資源の利用と開発 28. 家族への支援 29. まとめ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念① 2. 障害の概念② 3. 障害者福祉の基本理念① 4. 障害者福祉の基本理念② 5. 障害者福祉に関連する制度 6. 肢体不自由のある人の生活① 7. 肢体不自由のある人の生活② 8. 視覚障害のある人の生活 9. 聴覚・言語障害のある人の生活 10. 重複障害のある人の生活 11. 知的障害のある人の生活 12. 精神障害のある人の生活 13. 高次脳機能障害のある人の生活 14. 発達障害のある人の生活 15. まとめ 小テスト 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 心臓機能障害のある人の生活 17. 呼吸機能障害のある人の生活 18. 腎臓機能障害のある人の生活 19. 膀胱・直腸機能障害のある人の生活 20. 小腸機能障害のある人の生活 21. HIVによる免疫機能障害のある人の生活 22. 肝臓機能障害のある人の生活 23. 重症心身障害のある人の生活 24. 難病のある人の生活 25. 地域におけるサポート体制 26. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携 27. 社会資源の利用と開発 28. 家族への支援 29. まとめ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新・介護福祉士養成講座14 「障害の理解」 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験・提出物・出席状況・授業態度などから総合評価をする。 ・2/3以上の出席、及び総合評価60点以上で単位を与える。 			
<p>【担当講師】</p> <p>寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
医療的ケア I	講義		マイヤー 瞳
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
30 回(最終回は試験)	60 時間	1年生	通年
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉士による医療的ケア実施の社会的背景や、喀痰吸引などの医療的ケアが合法化されたことを理解する。医療職との連携のもとで喀痰吸引、経管栄養を安全に実施できるための必要な知識、倫理観を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」などについての基礎知識を理解する内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護福祉士として医療的ケアを実施することの意義、喀痰吸引、経管栄養等に必要な知識、倫理観について理解する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ医療的ケアを行うのか 2. 医行為と制度について 3. 医行為と制度について 4. 安全な療養生活 ① 5. 安全な療養生活 ② 6. 安全な療養生活 ③ 7. 感染予防と清潔保持 ① 8. 感染予防と清潔保持 ② 9. 健康状態の把握 ① 10. 健康状態の把握 ② 11. 呼吸のしくみと働き 12. 喀痰吸引とは 13. 喀痰吸引で用いる器具器材と清潔の保持 14. 救急蘇生 演習 15. 人工呼吸器と吸引 </div> <div style="width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 人工呼吸器と吸引② 17. 子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア 18. 利用者や家族の気持ちと対応・感染予防 19. 急変、事故発生時の対応と事前対策・報告・記録 20. 消化器のしくみと働き・消化器の主な症状 21. 経管栄養で用いる器具・器材と清潔の保持 22. 経管栄養剤の知識 23. 経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養 24. 経管栄養に必要なケア・利用者や家族の気持ち 25. 経管栄養に関する感染予防・安全確認 26. 急変時の対応と報告・記録 27. 経管栄養の実施手順 28. 経管栄養の実施手順 29. まとめ 30. 試験 </div> </div>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 中央法規出版 プリント配布</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験・実技試験・提出物・出席状況・授業態度などから総合評価をする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
Welfare Time I	演 習		佐竹 友美・寺田 知生		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30 回	60 時間	1年	通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>学校生活における基本的なルールを理解するとともに、社会人としてのマナーを身につける。学校行事やクラスイベントを通じて人との交流やチームワークなど、人間的成長を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>イベントの企画・参加／個別面談／話し方、マナー、文章力など基礎教育を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>学校行事を企画、参加することで、責任感、協調性を身につけることができる。 学校生活や社会生活における基本的なマナー、文章力が身につく。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 8. 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 17. 18. 19. 20. 21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。 22. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会に参加する。 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 8. 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 17. 18. 19. 20. 21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。 22. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会に参加する。 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 健康診断や防災訓練、新入生歓迎会など 8. 学校行事やクラスイベントなど行う。 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 17. 18. 19. 20. 21. クラスイベントの企画や卒業生を送る会などのイベントの企画、運営を行う。 22. 社会人としてのマナーを身につけられる研修会に参加する。 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、行事やイベント等への取り組み姿勢、提出物の総合評価 ・3分の2以上の出席 			

授 業 概 要

授業科目名 人間関係とコミュニケーションⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する内容である。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を修得する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践におけるチームマネージメントーヒューマンサービスとしての介護サービス 2. 介護実践におけるチームマネージメントー介護現場で求められるチームマネジメント 3. 介護実践におけるチームマネージメントー介護実践におけるチームマネジメントの取り組み 4. ケアを展開するためのチームマネージメントーケアを展開するために必要なチームとその取り組み 5. ケアを展開するためのチームマネージメントーチームでケアを展開するためのマネジメント 6. ケアを展開するためのチームマネージメントーチームの力を最大化するためのマネジメント 7. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネージメントー介護福祉職のキャリアと求められる実践力 8. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネージメントー介護福祉職としてのキャリアデザイン 9. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネージメントー介護福祉職のキャリア支援・開発 10. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネージメントー自己研鑽に必要な姿勢 11. 組織の目標達成のためのチームマネージメントー介護サービスを支える組織の構造 12. 組織の目標達成のためのチームマネージメントー介護サービスを支える組織の機能と役割 13. 組織の目標達成のためのチームマネージメントー介護サービスを支える組織の管理 14. まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 福祉レクリエーションⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 杉田美瑛/栗原美幸
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>福祉レクリエーションサービスの理論と根拠に基づき、様々な年齢の対象者にあわせたレクリエーションの実際を学び、その援助方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>対象年齢に合わせた手遊び、ゲーム、歌 ダンス、体操等、様々なレク財の技術、その援助方法を習得する。従来のレク財を対象者に合わせてアレンジする技術を学ぶ。行事にあわせたプログラム作成、運営する技術を習得する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>様々なレク財を対象者にあわせてアレンジし行事のプログラムに組み込み企画し、運営できるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行事にあわせたプログラムの企画① 2. 行事にあわせたプログラムの企画① 3. コミュニケーションワークショップ① 4. コミュニケーションワークショップ② 5. 対象者にあわせた手遊び① 6. 対象者にあわせた手遊び② 7. 行事にあわせたプログラムの企画① 8. 行事にあわせたプログラムの企画② 9. 対象者にあわせたオノマトペ体操① 10. 対象者にあわせたオノマトペ体操② 11. 対象者にあわせたゲーム① 12. 対象者にあわせたゲーム② 13. 発表① 14. 発表② 15. 試験 			
<p>事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーションサービス 実施マニュアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 2. 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 3. 楽しさの追求を支えるための介入技術 <p>公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度20%・実技試験30% 試験50%</p> <p>上記の3領域の配分割合のより100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 介護過程Ⅱ	授業の種類 講義		授業担当者 水嶋 美和		
授業の回数 30回(最終回は試験)	時間数 60時間	配当学年 2年	配当時期 前期		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護過程ⅠⅡを通し、介護過程の意義を理解し、尊厳の保持、自立支援に沿ったアセスメントおよび介護計画の立案・実施・評価の一連の思考過程を理解する。介護過程Ⅰにおいて、習得した知識を活かし、さまざまな生活場面における事例に基づき、介護過程を展開できる能力を養う。 チームで利用者を支えることや多職種連携の必要性を理解し、多角的に捉える視点を養う。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>実習での介護過程を展開に備え、演習を繰り返し行う。 テキストを用い、介護過程の計画立案、実施、評価の目的、記録、多職種協働の重要性について講義する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護過程の理論と介護実習を関連づけながら、介護過程を展開できる。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程Ⅰの復習 2. 介護過程におけるニーズとは 3. 目標とは 4. 目標設定の留意点 5. 一連の流れの説明 6. 実施と記録 7. 記録の仕方 8. 記録の仕方 9. 記録の仕方 10. カンファレンス 11. モニタリング・評価 12. 利用者に応じた介護過程の展開 13. 利用者に応じた介護過程の展開 14. 利用者に応じた介護過程の展開 15. 利用者に応じた介護過程の展開 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 介護過程とチームアプローチ 17. 介護過程とチームアプローチ 18. ケアマネジメントと介護過程 19. 利用者に応じた介護過程の展開 20. 利用者に応じた介護過程の展開 21. 利用者に応じた介護過程の展開 22. 利用者に応じた介護過程の展開 23. 利用者に応じた介護過程の展開 24. 利用者に応じた介護過程の展開 25. 利用者に応じた介護過程の展開 26. 利用者に応じた介護過程の展開 27. 利用者に応じた介護過程の展開 28. 利用者に応じた介護過程の展開 29. 利用者に応じた介護過程の展開 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程Ⅰの復習 2. 介護過程におけるニーズとは 3. 目標とは 4. 目標設定の留意点 5. 一連の流れの説明 6. 実施と記録 7. 記録の仕方 8. 記録の仕方 9. 記録の仕方 10. カンファレンス 11. モニタリング・評価 12. 利用者に応じた介護過程の展開 13. 利用者に応じた介護過程の展開 14. 利用者に応じた介護過程の展開 15. 利用者に応じた介護過程の展開 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護過程とチームアプローチ 17. 介護過程とチームアプローチ 18. ケアマネジメントと介護過程 19. 利用者に応じた介護過程の展開 20. 利用者に応じた介護過程の展開 21. 利用者に応じた介護過程の展開 22. 利用者に応じた介護過程の展開 23. 利用者に応じた介護過程の展開 24. 利用者に応じた介護過程の展開 25. 利用者に応じた介護過程の展開 26. 利用者に応じた介護過程の展開 27. 利用者に応じた介護過程の展開 28. 利用者に応じた介護過程の展開 29. 利用者に応じた介護過程の展開 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程Ⅰの復習 2. 介護過程におけるニーズとは 3. 目標とは 4. 目標設定の留意点 5. 一連の流れの説明 6. 実施と記録 7. 記録の仕方 8. 記録の仕方 9. 記録の仕方 10. カンファレンス 11. モニタリング・評価 12. 利用者に応じた介護過程の展開 13. 利用者に応じた介護過程の展開 14. 利用者に応じた介護過程の展開 15. 利用者に応じた介護過程の展開 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護過程とチームアプローチ 17. 介護過程とチームアプローチ 18. ケアマネジメントと介護過程 19. 利用者に応じた介護過程の展開 20. 利用者に応じた介護過程の展開 21. 利用者に応じた介護過程の展開 22. 利用者に応じた介護過程の展開 23. 利用者に応じた介護過程の展開 24. 利用者に応じた介護過程の展開 25. 利用者に応じた介護過程の展開 26. 利用者に応じた介護過程の展開 27. 利用者に応じた介護過程の展開 28. 利用者に応じた介護過程の展開 29. 利用者に応じた介護過程の展開 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>使用テキスト 最新介護福祉士養成講座9 第2版 介護過程</p> <p>参考文献 さまざまな事例を用いる</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席。 ・筆記試験・提出物・授業態度の総合評価とする。 			
<p>【担当講師】</p> <p>水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>					

授 業 概 要

授業科目名 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 講義		授業担当者 マイヤー 瞳
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>人の成長・発達する過程を理解し、老年期における心身や機能的変化および特徴に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的・精神的・社会的側面から捉え、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識について概説する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>加齢に伴う成熟の特徴と失われていく機能の特徴、発達課題を理解する。また、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、支援技術の根拠となる知識を身に付ける。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に多い病気① 骨格系・筋系 2. 高齢者に多い病気② 脳・神経系 3. 高齢者に多い病気③ 皮膚・感覚器系 4. 高齢者に多い病気④ 循環器系 5. 高齢者に多い病気⑤ 呼吸器系 6. 高齢者に多い病気⑥ 消化器系 7. 高齢者に多い病気⑦ 腎・泌尿器系 8. 高齢者に多い病気⑧ 内分泌・代謝系 9. 高齢者に多い病気⑨ 歯・口腔疾患 10. 高齢者に多い病気⑩ 悪性新生物 11. 高齢者に多い病気⑪ 感染症・精神疾患 12. 保健医療職との連携① 13. 保健医療職との連携② 14. まとめ 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>新・介護福祉士養成講座11・14 「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」 中央法規出版</p> <p>自作プリント</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師</p>			

授 業 概 要

授業科目名 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 講義		授業担当者 水嶋 美和
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 これまでに学んだ認知症に関する基礎的知識を基に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学習する。また、認知症に関連した制度を学び、多職種や地域の人と連携し、地域で認知症の人を支える必要性とその方法についても学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 テキストに沿い、認知症ケアの実際、家族の心理及び支援、環境、地域における支援などが理解できるよう講義をしていく。その他、事例を通して、認知症の方特有の問題点、課題を探り、生活支援について学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 認知症の基本症状や状態像を理解し、その方の暮らしの在り方を考えられる。 家族を支援する必要性を学び、ともに認知症の人を支えていくための支援を考え実践することができる。 認知症の人が地域で暮らすための必要性を理解し、具体的な支援方法を考え示すことができる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアの歴史 これまでと今とこれから 2. 認知症ケアの歴史と理念 3. 認知症ケアの実際(アセスメントツール) 4. 認知症ケアの実際(ひもときシート) 5. 認知症ケアの実際(ひもときシート) 6. 認知症ケアの実際(認知症の人とのコミュニケーション) 7. 認知症の人へのケア 8. 認知症の人へのケア 9. 認知症の人へのケア(認知症の人へのさまざまなアプローチ) 10. 環境づくり 11. 介護者支援 12. 認知症の人の地域生活支援(制度・サービス) 13. 認知症の人の地域生活支援(多職種連携と協働) 14. 1年次からのまとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> 新・介護福祉士養成講座13 第2版 「認知症の理解」中央法規社		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> ・2/3以上の出席。 ・筆記試験・提出物・授業態度の総合評価とする。	
<p>【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>			

授 業 概 要

授業科目名 医療的ケアⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 マイヤー/小林/佐藤
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという視点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>個人の尊厳、医療の倫理に基づき、根拠をもって喀痰吸引、経管栄養が実施できるための基礎知識、実施手順が理解できる内容とする。演習では安全な喀痰吸引等の実施のため、確実な手技を習得する内容とする。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>個人の尊厳、医療の倫理に基づいた、安全な喀痰吸引、経管栄養の手技を理解し、確実に実施することが出来る。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経管栄養の実施の手順と留意点 2. 経管栄養の実施の手順と留意点 3. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ① 4. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ② 5. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ③ 6. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ④ 7. 喀痰吸引の実施の手順と留意点 ⑤ 8. まとめ 筆記試験 9. 喀痰吸引 基本研修(演習)① 10. 喀痰吸引 基本研修(演習)② 11. 喀痰吸引 基本研修(演習)③ 12. 喀痰吸引 基本研修(演習)④ 13. 経管栄養 基本研修(演習)① 14. 経管栄養 基本研修(演習)② 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」 中央法規出版 第2版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験・実技試験・提出物・出席状況・授業態度などから総合評価をする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】</p> <p>マイヤー瞳：職歴—看護師歴7年 資格—看護師 小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員 佐藤真理子：職歴—看護師歴20年 資格—看護師、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 事例検討	授業の種類 演習		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 実践報告の意義と目的を理解し、自らの実習での取り組みをまとめ報告のための知識や技術を学び。また、実践報告会を通して実践にかかわる意識の向上を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実践報告の意義や目的を学び、自らの実習での取り組みを実践報告にまとめていく。また、学外の実践報告会に参加し、報告とその場でのディスカッションを聞きながら自身の考えを深めていく。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践報告の意義や目的について理解する。 ・実践報告のための基礎的な知識や技術について理解する。 ・社会福祉の実践において自身の考えを深める。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践報告とは 2. 実践報告の意義と目的① 3. 実践報告の意義と目的② 4. 実践報告の方法 5.) 6.) 7.) 8.) 9.) 10.) 11.) 12.) 13.) 14.) 15. 試験 <p style="margin-left: 40px;">・介護実習での実践を実践報告にまとめる。</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 適宜、プリントを配布する。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業に対する取り組み姿勢や提出物等の内容を踏まえた総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 福祉レクリエーションⅢ	授業の種類 演習		授業担当者 栗原美幸/杉田美瑛/寺田知生
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>総合的に福祉レクリエーションの介入技術（個人への介入方法・グループダイナミクスを活かした介入方法）や対象者と現場にあわせたレクリエーション活動のアレンジ方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開について個人への介入方法・グループダイナミクスを活かした介入方法等、演習形式で学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>作成したプログラムに対して、様々な介入技術を使い事業所等で実践する。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉レクリエーション支援の重要なポイントの確認① 2 福祉レクリエーション支援の重要なポイントの確認② 3 レクプログラムプランニング演習①-集団援助プログラム- 4 レクプログラムプランニング演習②-集団援助プログラム- 5 障害者スポーツ 6 個人へのレクリエーション支援の構造と展開① 7 個人へのレクリエーション支援の構造と展開② 8 福祉レクリエーションワーカー外部試験(筆記試験)対策① 9 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験)対策② 10 福祉レクリエーションワーカー外部試験(筆記試験) 11 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験 集団) 12 福祉レクリエーションワーカー外部試験(実技試験 個別) 13 コミュニケーションワークショップ① 14 コミュニケーションワークショップ② 15 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>事例でなっとく！よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 2. 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 3. 楽しさの追求を支えるための介入技術 <p>公益財団法人 日本レクリエーション協会</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>受講態度20%・実技試験30% 筆記試験50%</p> <p>上記の3領域の配分割合のより100点満点で評価し60点以上を合格とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>栗原美幸：職歴—高等学校教諭(保健体育)歴8年、大学・短期大学非常勤講師(体育)歴24年 資格—高等学校教諭1(保健体育)、中学校教諭1種(保健体育)、精神保健福祉寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>			

授 業 概 要

授業科目名 介護過程Ⅲ	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 介護過程Ⅰ・Ⅱを踏まえ介護過程の実践に必要な知識を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「介護過程の意義」「介護過程の展開」「介護過程の実践的展開」「介護過程のチームアプローチ」について、テキストを用いて学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 介護過程の知識を深め、介護過程の実践に必要な知識を身につける。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程の意義 2. 介護過程の展開—情報収集とアセスメント 3. 介護過程の展開—情報収集の方法 4. 介護過程の展開—情報の解釈・関連づけ・統合化 5. 介護過程の展開—課題の明確化 6. 介護過程の展開—ICFと介護過程 7. 介護過程の展開—課題、目標 8. 介護過程の展開—計画 9. 介護過程の展開—実施 10. 介護過程の展開—評価 11. 介護過程の実践的展開① 12. 介護過程の実践的展開② 13. 介護過程とチームアプローチ① 14. 介護過程とチームアプローチ② 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護過程Ⅰ・Ⅱ で使用したテキスト 『介護福祉士国家試験受験 ワークブック2023 下』中 央法規</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 授業態度(提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】 水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 こころとからだのしくみⅢ	授業の種類 講義		授業担当者 小林 栄
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識を習得することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>「こころとからだのしくみⅠ、Ⅱ」「老化の理解Ⅰ、Ⅱ」「障害の理解」の知識の定着と理解を深め、どのような障害や病気があっても、その人が望む環境の中で「活動」「参加」し続けられるような支援について概説する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護の視点から、いつもと異なる利用者の生活状態に早めに気づくことのできる医学的知識と、多職種との連携の必要性を理解できる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころとからだ こころのしくみ ① 2. こころとからだ こころのしくみ ② 3. こころとからだ からだのしくみ ① 4. こころとからだ からだのしくみ ② 5. こころとからだ からだのしくみ ③ 6. こころとからだ からだのしくみ ④ 7. こころとからだ 身じたく・移動に関するしくみ 8. こころとからだ 食事・入浴に関するしくみ 9. こころとからだ 排泄・睡眠に関するしくみ 10. こころとからだ 死に行く人に関するしくみ 11. 障害の理解 ① 12. 障害の理解 ② 13. 障害の理解 ③ 14. まとめ 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 11・14 第2版 「障害の理解」 中央法規出版 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 「からだの事典」 成美堂出版 自作プリント</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験・提出物・出席状況・授業態度などから総合評価をする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】</p> <p>小林栄：職歴—生活指導員歴18年、看護師歴1年 資格—社会福祉士、介護福祉士、看護師、介護支援専門員、相談支援員</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
健康科学	講義		杉田美瑛
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
8回	15時間	2年生	後期
【授業の目的・ねらい】 自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。			
【授業全体の内容の概要】 健康科学のテキストにより科学的健康づくりを学ぶ。			
【授業修了時の達成課題(到達目標)】 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、健康な生活を送ることができるようになる。			
【授業のテーマ・内容・授業方法】 1. 健康な生活設計 2. 身近な病気① ～ 食中毒 ～ 3. 身近な病気② ～ がん ～ 4. 身近な病気③ ～ 薬害 ～ 5. 身近な病気④ ～エイズ～ 6. 健康と運動 7. 健康と食生活 8. 試験 科目試験			
【使用テキスト・参考文献】 自作資料		【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 科目試験の結果により判定し評価する。	

授 業 概 要

授業科目名 リハビリテーション論	授業の種類 演習		授業担当者 小林 義文
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 2年生	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの基礎知識を履修すること。 ・介護とリハビリテーションの融合を図り、自立支援に向けた介護を実践できる知識や技術を習得する。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 ・運動学 ・運動療法 ・疾患の特性とリハビリテーションについて ・ボディメカニクスについて ・リハビリテーション介護 <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に必要な身体面を中心とした、医学的知識。 ・介護が必要になる要因となる疾患に即した、介護技術の習得。 ・自立支援に向けた介護手法の習得。 			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>1～2. リハビリテーションの理論と組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの考え方や歴史、ノーマライゼーション、障害を持つ人々の自立 ・変わる地域社会の理解、チームアプローチ、かかわる領域と専門職種を理解する ・ICFと自立支援 <p>3～5. 移乗・移乗に関する基本概念と福祉用具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味と目的 ・多職種連携 ・福祉用具の種類と適応、アセスメント <p>6～8. 障害別リハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由、内部障害、重度心身障害に分けたリハビリテーションの考え方 ・難病や重度重複障害など進行性疾患に対するリハビリテーション <p>9～10. 発達と老化からみたリハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達途上の子どもたちへのリハビリテーション ・高齢者の症状・疾患とリハビリテーション ・保健医療との連携 <p>11～14. リハビリテーション介護実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢と体位変換、移乗動作と車いす、歩行・移動補助具、これまでの振り返りなど <p>15 最終講 試験</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新 介護福祉士養成講座1-15 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記述試験と出席率 	
<p>【担当講師】 小林義文：職歴一理学療法士歴38年、大学/専門学校非常勤講師歴20年 資格一理学療法士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 社会の理解	授業の種類 講義		授業担当者 水野 正伸																														
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年 2年生	配当時期 通年																														
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を学び、生活と社会の関係性を体系的に捉える学び。 ・対象者の生活の場としての地域について、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を学ぶ。 ・日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて学ぶ。 ・高齢者及び障害者の権利擁護等の制度について、介護実践に必要な基礎的な知識を学ぶ。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個人」「家族」「地域」「社会」のしくみと、地域における生活の構造について学ぶ、生活と社会の関わりや「自助」「互助」「共助」「公助」の展開について理解する内容。 ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する内容。 ・社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉える内容。 ・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する内容。 <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。 ・対象者の生活の場としての地域について、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を修得する。 ・日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。 ・高齢者及び障害者の権利擁護等の制度について、介護実践に必要な基礎的な知識を修得する。 																																	
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. 社会と生活のしくみー生活を幅広くとらえる</td> <td style="width: 50%; border: none;">16. 日本の社会保障制度のしくみ①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2. 社会と生活のしくみー生活の基本機能</td> <td style="border: none;">17. 日本の社会保障制度のしくみ②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. 社会と生活のしくみーライフスタイルの変化</td> <td style="border: none;">18. 日本の社会保障制度のしくみ③</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4. 社会と生活のしくみー家族の機能と役割</td> <td style="border: none;">19. 日本の社会保障制度のしくみ④</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. 社会と生活のしくみー社会・組織の機能と役割</td> <td style="border: none;">20. 現代社会と社会保障制度①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6. 社会と生活のしくみー地域・地域社会</td> <td style="border: none;">21. 現代社会と社会保障制度②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. 社会と生活のしくみー地域における生活支援</td> <td style="border: none;">22. 個人の権利を守る制度・施策①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策①</td> <td style="border: none;">23. 個人の権利を守る制度・施策②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">9. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策②</td> <td style="border: none;">24. 保健医療に関する制度・施策①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策③</td> <td style="border: none;">25. 保健医療に関する制度・施策②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">11. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策④</td> <td style="border: none;">26. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">12. 社会保障の基本的な考え方①</td> <td style="border: none;">27. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">13. 社会保障の基本的な考え方②</td> <td style="border: none;">28. 地域生活を支援する制度・施策①</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">14. 日本の社会保障制度の発達①</td> <td style="border: none;">29. 地域生活を支援する制度・施策②</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">15. 日本の社会保障制度の発達②</td> <td style="border: none;">30. 試験</td> </tr> </table>				1. 社会と生活のしくみー生活を幅広くとらえる	16. 日本の社会保障制度のしくみ①	2. 社会と生活のしくみー生活の基本機能	17. 日本の社会保障制度のしくみ②	3. 社会と生活のしくみーライフスタイルの変化	18. 日本の社会保障制度のしくみ③	4. 社会と生活のしくみー家族の機能と役割	19. 日本の社会保障制度のしくみ④	5. 社会と生活のしくみー社会・組織の機能と役割	20. 現代社会と社会保障制度①	6. 社会と生活のしくみー地域・地域社会	21. 現代社会と社会保障制度②	7. 社会と生活のしくみー地域における生活支援	22. 個人の権利を守る制度・施策①	8. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	23. 個人の権利を守る制度・施策②	9. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	24. 保健医療に関する制度・施策①	10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	25. 保健医療に関する制度・施策②	11. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策④	26. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①	12. 社会保障の基本的な考え方①	27. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②	13. 社会保障の基本的な考え方②	28. 地域生活を支援する制度・施策①	14. 日本の社会保障制度の発達①	29. 地域生活を支援する制度・施策②	15. 日本の社会保障制度の発達②	30. 試験
1. 社会と生活のしくみー生活を幅広くとらえる	16. 日本の社会保障制度のしくみ①																																
2. 社会と生活のしくみー生活の基本機能	17. 日本の社会保障制度のしくみ②																																
3. 社会と生活のしくみーライフスタイルの変化	18. 日本の社会保障制度のしくみ③																																
4. 社会と生活のしくみー家族の機能と役割	19. 日本の社会保障制度のしくみ④																																
5. 社会と生活のしくみー社会・組織の機能と役割	20. 現代社会と社会保障制度①																																
6. 社会と生活のしくみー地域・地域社会	21. 現代社会と社会保障制度②																																
7. 社会と生活のしくみー地域における生活支援	22. 個人の権利を守る制度・施策①																																
8. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	23. 個人の権利を守る制度・施策②																																
9. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	24. 保健医療に関する制度・施策①																																
10. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	25. 保健医療に関する制度・施策②																																
11. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策④	26. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策①																																
12. 社会保障の基本的な考え方①	27. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策②																																
13. 社会保障の基本的な考え方②	28. 地域生活を支援する制度・施策①																																
14. 日本の社会保障制度の発達①	29. 地域生活を支援する制度・施策②																																
15. 日本の社会保障制度の発達②	30. 試験																																
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解』中央法規 ※「高齢者の生活と福祉」および「障がい者の生活と福祉」と同じ</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 授業態度(確認テスト、提出物等を含む)と試験の総合評価とする。</p>																															
<p>【担当講師】</p> <p>水野正伸：職歴—生活指導員歴8年、生活相談員歴10年 資格—社会福祉士、介護支援専門員</p>																																	

授 業 概 要

授業科目名 生活支援技術Ⅱ	授業の種類 演習		授業担当者 寺田 知生		
授業の回数 30回(最終回は試験)	時間数 60 時間	配当学年 2年	配当時期 通 年		
<p>【授業の目的・ねらい】 利用者と住まいの関係性や環境整備の重要性を理解する。また介護サービスにおける居住環境の知識を身につける。 利用者の健康的、社会的な生活を営むうえで重要な衣・住について理解する。 終末期に携わる者としての基本姿勢および、支援の知識・技術を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 個々の暮らしを援助する知識について、テキストを用い説明する。 個々の状態に応じた介護の技術を提供できるよう演習にて指導する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 専門職としての自覚を持ち、適切で安全に援助できる技術や知識を習得する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援とは 2. 生活支援と福祉用具 3. 居住環境の意義と目的 4. 実技 状況に応じた介助 5. 実技 状況に応じた介助 6. 施設における安全で心地よい生活の場 7. 安心して快適な生活の場づくり 8. 睡眠の介護 9. 実技 状況に応じた介助 10. 実技 状況に応じた介助 11. 終末期の介護 12. 緊急時の介護 13. 実技 状況に応じた介助 14. 実技 状況に応じた介助 15. 実技試験 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 実技 状況に応じた介助 17. 実技 状況に応じた介助 18. 福祉用具見学 19. 福祉用具見学 20. 実技 状況に応じた介助 21. 実技 状況に応じた介助 22. 実技 状況に応じた介助 23. 家事の介護 24. 家庭生活の理解 25. 家庭生活の理解 26. 演習(裁縫、手縫い) 27. 演習(裁縫、手縫い) 28. 演習(裁縫、手縫い) 29. まとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援とは 2. 生活支援と福祉用具 3. 居住環境の意義と目的 4. 実技 状況に応じた介助 5. 実技 状況に応じた介助 6. 施設における安全で心地よい生活の場 7. 安心して快適な生活の場づくり 8. 睡眠の介護 9. 実技 状況に応じた介助 10. 実技 状況に応じた介助 11. 終末期の介護 12. 緊急時の介護 13. 実技 状況に応じた介助 14. 実技 状況に応じた介助 15. 実技試験 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 実技 状況に応じた介助 17. 実技 状況に応じた介助 18. 福祉用具見学 19. 福祉用具見学 20. 実技 状況に応じた介助 21. 実技 状況に応じた介助 22. 実技 状況に応じた介助 23. 家事の介護 24. 家庭生活の理解 25. 家庭生活の理解 26. 演習(裁縫、手縫い) 27. 演習(裁縫、手縫い) 28. 演習(裁縫、手縫い) 29. まとめ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援とは 2. 生活支援と福祉用具 3. 居住環境の意義と目的 4. 実技 状況に応じた介助 5. 実技 状況に応じた介助 6. 施設における安全で心地よい生活の場 7. 安心して快適な生活の場づくり 8. 睡眠の介護 9. 実技 状況に応じた介助 10. 実技 状況に応じた介助 11. 終末期の介護 12. 緊急時の介護 13. 実技 状況に応じた介助 14. 実技 状況に応じた介助 15. 実技試験 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 実技 状況に応じた介助 17. 実技 状況に応じた介助 18. 福祉用具見学 19. 福祉用具見学 20. 実技 状況に応じた介助 21. 実技 状況に応じた介助 22. 実技 状況に応じた介助 23. 家事の介護 24. 家庭生活の理解 25. 家庭生活の理解 26. 演習(裁縫、手縫い) 27. 演習(裁縫、手縫い) 28. 演習(裁縫、手縫い) 29. まとめ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新介護福祉全書 第6巻「生活支援技術Ⅰ」(第2版) 最新介護福祉全書 第7巻「生活支援技術Ⅱ」(第2版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) ・2/3以上の出席。 ・筆記試験については60点以上 実技については実技試験にて基準を満たすこと 上記の総合評価によって単位を認定する。</p>			
<p>【担当講師】 寺田知生：職歴—介護職員歴14年 資格—介護福祉士、介護教員講習会修了、福祉レクリエーション・ワーカー</p>					

授 業 概 要

授業科目名 生活支援技術Ⅲ	授業の種類 演習		授業担当者 佐藤 真理子		
授業の回数 30回(最終回は試験)	時間数 60時間	配当学年 2年	配当時期 通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>障害に応じて、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>それぞれの障害の理解と生活を支えるための基本介護技術を中心に、意義や目的の理解に重点をおいた指導を行う。また演習ではロールプレイ、グループワークなどを通して理解力、思考力、観察力を深める。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>障害のある人の生活を理解し、利用者が生活の中で求めていく幸せとは何かを的確に捉え、個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援ができるようになる。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは16. 2. 肢体不自由に応じた介護① 3. 肢体不自由に応じた介護② 4. 視覚障害に応じた介護① 5. 視覚障害に応じた介護② 6. 聴覚・言語障害に応じた介護① 7. 聴覚・言語障害に応じた介護② 8. 重複障害に応じた介護 9. 内部障害に応じた介護<心臓機能障害①> 10. 内部障害に応じた介護<心臓機能障害②> 11. 内部障害に応じた介護<呼吸機能障害> 12. 内部障害に応じた介護<腎機能障害> 13. 内部障害に応じた介護<膀胱・直腸機能障害> 14. 内部障害に応じた介護<小腸機能障害> 15. 内部障害に応じた介護<HIVによる免疫機能障害> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 内部障害に応じた介護<肝臓機能障害> 17. 重症心身障害に応じた介護 18. 知的障害に応じた介護 19. 精神障害に応じた介護① 20. 精神障害に応じた介護② 21. 高次脳機能障害に応じた介護① 22. 高次脳機能障害に応じた介護② 23. 発達障害に応じた介護① 24. 発達障害に応じた介護② 25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS) 26. 難病 パーキンソン病に応じた介護 27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護 28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護 29. まとめ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは16. 2. 肢体不自由に応じた介護① 3. 肢体不自由に応じた介護② 4. 視覚障害に応じた介護① 5. 視覚障害に応じた介護② 6. 聴覚・言語障害に応じた介護① 7. 聴覚・言語障害に応じた介護② 8. 重複障害に応じた介護 9. 内部障害に応じた介護<心臓機能障害①> 10. 内部障害に応じた介護<心臓機能障害②> 11. 内部障害に応じた介護<呼吸機能障害> 12. 内部障害に応じた介護<腎機能障害> 13. 内部障害に応じた介護<膀胱・直腸機能障害> 14. 内部障害に応じた介護<小腸機能障害> 15. 内部障害に応じた介護<HIVによる免疫機能障害> 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 内部障害に応じた介護<肝臓機能障害> 17. 重症心身障害に応じた介護 18. 知的障害に応じた介護 19. 精神障害に応じた介護① 20. 精神障害に応じた介護② 21. 高次脳機能障害に応じた介護① 22. 高次脳機能障害に応じた介護② 23. 発達障害に応じた介護① 24. 発達障害に応じた介護② 25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS) 26. 難病 パーキンソン病に応じた介護 27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護 28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護 29. まとめ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは16. 2. 肢体不自由に応じた介護① 3. 肢体不自由に応じた介護② 4. 視覚障害に応じた介護① 5. 視覚障害に応じた介護② 6. 聴覚・言語障害に応じた介護① 7. 聴覚・言語障害に応じた介護② 8. 重複障害に応じた介護 9. 内部障害に応じた介護<心臓機能障害①> 10. 内部障害に応じた介護<心臓機能障害②> 11. 内部障害に応じた介護<呼吸機能障害> 12. 内部障害に応じた介護<腎機能障害> 13. 内部障害に応じた介護<膀胱・直腸機能障害> 14. 内部障害に応じた介護<小腸機能障害> 15. 内部障害に応じた介護<HIVによる免疫機能障害> 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 内部障害に応じた介護<肝臓機能障害> 17. 重症心身障害に応じた介護 18. 知的障害に応じた介護 19. 精神障害に応じた介護① 20. 精神障害に応じた介護② 21. 高次脳機能障害に応じた介護① 22. 高次脳機能障害に応じた介護② 23. 発達障害に応じた介護① 24. 発達障害に応じた介護② 25. 難病 筋萎縮性側索硬化症(ALS) 26. 難病 パーキンソン病に応じた介護 27. 難病 悪性関節リウマチに応じた介護 28. 難病 筋ジストロフィーに応じた介護 29. まとめ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座8・13・14 「生活支援技術Ⅲ」「障害の理解」 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 			
<p>【担当講師】 佐藤真理子：職歴—看護師歴20年 資格—看護師、介護支援専門員</p>					

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
介護総合演習Ⅱ	演 習		水嶋 美和		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30回	60時間	2年生	通 年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>最終段階の介護実習Ⅱに向けての心構えや動機づけ、事前学習などを行い、実習を通して実践力の向上が図られるようにする。また、実習後は振り返りを通し省察を行い、介護福祉士として身につける必要がある自身の課題を明らかにしていく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>実習にともなう必要な知識や技術、介護過程の展開する力など、個別の学習到達状況に応じて総合的に学ぶ。また、グループでの話し合いを取り入れ理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>現段階で身につけた介護の実践力の確認と、課題を明確化し、介護福祉士として資質の向上を図っていく必要性を理解する。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱ(15日間)の準備と確認① 10. 介護実習Ⅱ(15日間)の準備と確認② 11. 介護実習Ⅱ(15日間)の帰校学習 12. 介護実習Ⅱ(15日間)の振り返り① 13. 介護実習Ⅱ(15日間)の振り返り② 14. 介護実習Ⅱ(22日間)の進め方 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <ol style="list-style-type: none"> 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習② 17. 介護実習Ⅱ(22日間)の準備と確認① 18. 介護実習Ⅱ(22日間)の準備と確認② 19. 介護実習Ⅱ(22日間)の帰校学習① 20. 介護実習Ⅱ(22日間)の帰校学習② 21. 介護実習の省察の意義 23. 介護実習の省察① 23. 介護実習の省察② 24. 介護実習の省察③ 25. 介護実習の省察④ 26. 介護実習の省察⑤ 27. 介護実習の省察⑥ 28. 介護実習の省察⑦ 29. 介護実習の省察⑧ 30. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱ(15日間)の準備と確認① 10. 介護実習Ⅱ(15日間)の準備と確認② 11. 介護実習Ⅱ(15日間)の帰校学習 12. 介護実習Ⅱ(15日間)の振り返り① 13. 介護実習Ⅱ(15日間)の振り返り② 14. 介護実習Ⅱ(22日間)の進め方 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① 	<ol style="list-style-type: none"> 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習② 17. 介護実習Ⅱ(22日間)の準備と確認① 18. 介護実習Ⅱ(22日間)の準備と確認② 19. 介護実習Ⅱ(22日間)の帰校学習① 20. 介護実習Ⅱ(22日間)の帰校学習② 21. 介護実習の省察の意義 23. 介護実習の省察① 23. 介護実習の省察② 24. 介護実習の省察③ 25. 介護実習の省察④ 26. 介護実習の省察⑤ 27. 介護実習の省察⑥ 28. 介護実習の省察⑦ 29. 介護実習の省察⑧ 30. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅱの目的と目標① 2. 介護実習Ⅱの目的と目標② 3. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ① 4. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ② 5. 介護過程を展開する介護実習Ⅱ③ 6. 介護実習Ⅱの事前学習—実習姿勢 7. 介護実習Ⅱの事前学習—記録① 8. 介護実習Ⅱの事前学習—記録② 9. 介護実習Ⅱ(15日間)の準備と確認① 10. 介護実習Ⅱ(15日間)の準備と確認② 11. 介護実習Ⅱ(15日間)の帰校学習 12. 介護実習Ⅱ(15日間)の振り返り① 13. 介護実習Ⅱ(15日間)の振り返り② 14. 介護実習Ⅱ(22日間)の進め方 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習① 	<ol style="list-style-type: none"> 15. 介護実習Ⅱの事前学習—演習② 17. 介護実習Ⅱ(22日間)の準備と確認① 18. 介護実習Ⅱ(22日間)の準備と確認② 19. 介護実習Ⅱ(22日間)の帰校学習① 20. 介護実習Ⅱ(22日間)の帰校学習② 21. 介護実習の省察の意義 23. 介護実習の省察① 23. 介護実習の省察② 24. 介護実習の省察③ 25. 介護実習の省察④ 26. 介護実習の省察⑤ 27. 介護実習の省察⑥ 28. 介護実習の省察⑦ 29. 介護実習の省察⑧ 30. 試験 				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>『最新介護福祉士養成講座10 第2版介護総合演習』 中央法規出版 実習の手引き</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 授業態度(欠席、遅刻、早退を含む)、実習への取り組みの姿勢、実習の省察内容、試験などの総合評価とする。</p>			
<p>【担当講師】</p> <p>水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>					

授 業 概 要

授業科目名 介護実習Ⅱ	授業の種類 実習		授業担当者 介護専任
授業の回数	時間数 296時間	配当学年 2年生	配当時期 通年
<p>【授業の目的・ねらい】 情報収集から始めるアセスメントや介護計画の立案、計画の実施・評価など介護過程を展開し、介護にかかわる科目で学んだ知識や技術を総合的に活用し実践力を高める。</p>			
<p>【授業全体の内容の概要】 前半80時間、後半216時間に分け、原則、前・後半とも同一の実習施設で行い、後半においては夜勤等を含む変則勤務帯の実習も行う。 実習では、実習指導者等の助言・指導を受けながら生活支援の実践を積み重ねるとともに、対象利用者を決め介護過程の展開を実践する。そして、実習を通して専門職としての自覚を養う。</p>			
<p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 生活支援にかかわる利用者個々の課題を明確にし、具体的な支援ができる能力の基礎を身につける。また、介護福祉士のあり方や職業倫理、チームケアなどを学び、専門職としての自覚が芽生える。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】 配属実習とし、特別養護老人ホーム等において夜勤等の変則勤務帯を含めた実習を行う。そして、実習では以下の点について、実習指導者などの助言や指導を受けながらその内容に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象利用者を決め介護過程の展開を実践する。 ・生活支援の実践を積み重ねる。 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 実習の手引き 介護総合演習テキスト</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など) 4/5以上の実習を行ない、実習施設の評価と担当教員の評価の総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
Welfare Time II	演習		小林 栄		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30 回	60 時間	2年生	通年		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>学校生活における基本的なルールを理解するとともに、社会人としてのマナーを身につける。学校行事やクラスイベントを通じて人との交流やチームワークなど、人間的成長を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>イベントの企画・参加／個別面談／話し方、マナー、文章力など基礎教育を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>学校行事を企画、参加することで、責任感、協調性を身につけることができる。 学校生活や社会生活における基本的なマナー、文章力が身につく。</p>					
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border: none;"> <p>前期15回</p> <p>新入生歓迎会や健康診断など 学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>またボランティア活動や講演などを社会活動に参加する</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border: none;"> <p>後期15回</p> <p>学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>社会生活を営む上での基本的なマナーを身につけられるようグループ活動を行う</p> <p>15回目に試験を行う</p> </td> </tr> </table>				<p>前期15回</p> <p>新入生歓迎会や健康診断など 学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>またボランティア活動や講演などを社会活動に参加する</p>	<p>後期15回</p> <p>学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>社会生活を営む上での基本的なマナーを身につけられるようグループ活動を行う</p> <p>15回目に試験を行う</p>
<p>前期15回</p> <p>新入生歓迎会や健康診断など 学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>またボランティア活動や講演などを社会活動に参加する</p>	<p>後期15回</p> <p>学校行事、クラスイベントを企画・参加する</p> <p>社会生活を営む上での基本的なマナーを身につけられるようグループ活動を行う</p> <p>15回目に試験を行う</p>				
<p>【使用テキスト・参考文献】</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
医療事務 I	講義		石黒 和恵/山 英子		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
48回(最終回は試験)	96 時間	1年	前期		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医療事務に関する技術・知識の基礎的な能力を身につける。診療報酬に携わる上で最低限求められる技術や知識を学習し、医療事務技能審査試験(メディカルクラーク)の合格を目指す。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>保険診療を点数算定の項目別に学習し、基本的な算定の留意点、診療報酬明細書(レセプト)への記載方法を学ぶ。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>保険制度を理解し、診療報酬明細書(レセプト)の記入・点検ができる。</p>					
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1～4. 保険制度・診察料 5～6. 医学管理等 7～10. 往診料と在宅医療 11～15. 投薬 16～18. 注射 19～24. 処置 25. リハビリテーション 26～31. 検査 32. 病理診断 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 33～35. 手術 36. 輸血 37～39. 麻酔 40～43. 画像診断 44. 精神科専門療法・放射線治療 45～46. 入院 47. 試験 48. メディカルクラーク検定試験 </td> </tr> </table>				1～4. 保険制度・診察料 5～6. 医学管理等 7～10. 往診料と在宅医療 11～15. 投薬 16～18. 注射 19～24. 処置 25. リハビリテーション 26～31. 検査 32. 病理診断	33～35. 手術 36. 輸血 37～39. 麻酔 40～43. 画像診断 44. 精神科専門療法・放射線治療 45～46. 入院 47. 試験 48. メディカルクラーク検定試験
1～4. 保険制度・診察料 5～6. 医学管理等 7～10. 往診料と在宅医療 11～15. 投薬 16～18. 注射 19～24. 処置 25. リハビリテーション 26～31. 検査 32. 病理診断	33～35. 手術 36. 輸血 37～39. 麻酔 40～43. 画像診断 44. 精神科専門療法・放射線治療 45～46. 入院 47. 試験 48. メディカルクラーク検定試験				
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「医科テキスト1・2・3・4」「薬価表」 「資料ブック」 「診療報酬明細書」 「診療点数早見表」</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験、提出物、受講態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上。 <p>*メディカルクラークの資格取得は、(一財)日本医療教育財団主催の試験を受験する。</p>			
<p>【担当講師】</p> <p>石黒和恵：職歴—医療事務歴35年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級、日商簿記検定2級</p>					

授 業 概 要

授業科目名 歯科助手	授業の種類 講義		授業担当者 藤田 芳実
授業の回数 30回(最終回は試験)	時間数 60 時間	配当学年 1年	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>歯科助手の業務から患者接遇・窓口マナーなど、歯科クリニックの現場で必要となるトータルなスキルを身に付け、歯科助手技能認定取得を目指す。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>歯科助手についての基礎知識を理解する。 歯科クリニックで役立つ専門的なスキルを身に付け、歯科医師や歯科衛生士の診療をサポートするための技術を学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>歯科診療に欠かせない歯科助手となるために、診療録の内容や用語を理解し、実習や就職の自信に繋げる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医院の仕事・スタッフについて 2. 歯科医院の仕事の流れ・歯科助手の仕事について 3. 歯科器機・器具の基礎知識・消毒・滅菌について 4. X線の器機・器具・歯科材料 5. 歯科材料(印象材・石膏) 6. 歯科材料(印象材・石膏)・実習(アルジネート練和) 7. 診療室管理 8. 口腔・歯の解剖・う蝕症・歯周組織について 9. 歯の萌出・名称・特徴(永久歯・乳歯) 10. 歯式・根管の数・歯の方向部位について 11. 歯式・名称の復習/動作の基礎知識 12. 動作の基礎知識 13. 歯科診療の流れ・基本セット・診査の種類 14. う蝕予防処置・ラバーダム防湿 15. 充填(コンポジットレジン)の流れと介助 16. インレー・クラウンによる修復の流れと介助 17～18. 課題 19. 歯内療法について(疾患の分類) 20. 歯内療法(抜髄～根充)の流れと介助 21. 口腔外科治療について 22. 抜歯の流れと介助・患者対応 23. 歯周病の治療について 24. 歯周外科治療 25. 補綴治療について 26～27. 試験対策 28. 歯科助手検定 29. 歯科助手検定 30. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「歯科助手テキスト」 ニチイ学館 「歯科助手の基礎知識」 (株)ソラスト ・その他配布資料</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・試験、提出物、受講態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上。 *資格取得は、(一財)日本医療教育財団主催の「歯科助手技能認定」を取得する。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>藤田芳実：職歴—歯科助手歴11年 資格—歯科衛生士</p>			

授 業 概 要

授業科目名 試験対策	授業の種類 講義		授業担当者 石黒 和恵/山 英子
授業の回数 60回(最終回は試験)	時間数 120 時間	配当学年 1年	配当時期 前期
<p>[授業の目的・ねらい] 講義を基礎とした知識の理解を深め、レセプトなどの作成能力を養う。資格試験の合格を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 学科問題、診療報酬明細書の作成などを行い、医療事務(メディカル検定)に係る知識、留意点を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 基本的な診療報酬請求事務を行うことができ、点数早見表から算定の留意点を読み取れる。資格試験の取得と共に、診療録の内容や用語の理解ができ、実習や就職の自信に繋げる。</p>			
<p>[授業のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の内容をもとに、資格試験の内容(患者対応について・学科問題・レセプト作成点検問題など)を行う。 ・最終日には試験を行う。 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 適宜必要なテキスト等を使用</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況(2/3以上)・受講態度・提出物・資格取得状況をもとに、総合的に判定する。 <p>* 資格試験は外部の実施する試験を受験。</p>	
<p>【担当講師】 石黒和恵：職歴—医療事務歴35年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級、日商簿記検定2級</p>			

授 業 概 要

授業科目名 医事関連法規	授業の種類 講義		授業担当者 山 英子
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30 時間	配当学年 1年	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医療機関は人の健康や命にかかわる重要な場であり、国民の生存権を保障するため、社会福祉、社会保障、公衆衛生に関するさまざまな法規を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>保険のしくみを理解して、医療機関に関わりの深い法規や制度に触れ、それぞれの役割について学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>医療機関の事務・受付で必要とされる法規等の説明ができる。 医療事務のメディカルクラーク医科検定の学科の合格を目指す。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保険のしくみ①医療機関と薬局について 2. 保険のしくみ②医療法について(目的と内容) 3. 健保・国保・医療保険制度・医療保険に関する法規 4. 医療法・医療保険の種類・健康保険法 5. 医師法・保険給付・健康保険法 6. 医療従事者に関する法規高額療養費・労災と自賠責 7. 予防衛生に関する法規・医療事務の仕事・保険療養担当法規 8. 保健衛生と環境衛生に関する法規・公費負担医療制度 9. 薬事関連・環境衛生法規・介護保険法 10. 保険医療機関及び医療従事者に関する法規・医療事務スタッフの心構え 11. 公費負担医療制度・院内感染・個人情報保護法 12. 介護保険法・医療法・医師法・薬事関連法規 13. 個人情報保護法・検定対策(総復習) 14. 労働者災害補償法と自動車損害賠償保障法・医事現場における医療関連法規 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「医療関連法規」 (株)ソラスト 「医療保障制度テキスト1」 (株)ソラスト</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・試験、提出物、受講態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上。</p>	
<p>【担当講師】 山英子：職歴—医療事務歴10年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級</p>			

授 業 概 要

授業科目名 医学の知識	授業の種類 講義		授業担当者 佐藤 真理子
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>人体の構造と機能および疾病に関する基本的知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>身体構造と心身の機能、主な疾病や障害の概要についてテキストやプリントを中心に解説する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>医療事務職として必要な医学的知識(人体の構造、疾患、治療、検査、薬剤など)を身に付ける。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の全体像、細胞・組織について 2. 血液・リンパ・免疫について 3. 骨格・筋肉系について 4. 循環器系について 5. 消化器系について 6. 呼吸器系について 7. 泌尿器系について 8. 生殖器系について 9. 内分泌系について 10. 神経系について 11. 感覚器系について 12. 感染症について 13. 精神疾患について 14. 薬の基本知識 まとめ 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「医学入門」 (株)ソラスト 自作プリント</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 佐藤真理子：職歴—看護師歴20年 資格—看護師、介護支援専門員</p>			

授 業 概 要

授業科目名 介護の基本	授業の種類 演習		授業担当者 水嶋 美和
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30時間	配当学年 1年	配当時期 前期
<p>【授業の目的・ねらい】 介護が必要な方への支援を行うための基本的態度と知識について理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 利用者の身体面だけでなく、心理面にも着目し、より良いケアを行うための適切な介護方法を学習する。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 高齢者の現状を知るとともに、利用者の心身の状態を理解し、適切なコミュニケーションの技法を選択活用し、介護の基本的な技術が習得できる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護のための基礎知識 2～3. 介護保険などの制度とサービス 4～5. 高齢者の病気の基礎知識 6～7. 高齢者や認知症高齢者のこころを支える 8～10. 高齢者を理解し信頼を形成する 11. 介護技術の基本(移動移乗の介護) 12. 介護技術の基本(衣服着脱の介助) 13. 介護技術の基本(事故や病気の時の対応) 14. 住み慣れた地域で暮らすために 15. 試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護の基本テキスト はじめて学ぶ介護 株式会社 日本医療企画</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験、提出物、出席状況、授業態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 水嶋美和：職歴—介護職員歴15年 資格—介護福祉士、介護支援専門員、認知症介護指導者養成研修終了</p>			

授 業 概 要

授業科目名 接客マナー	授業の種類 演習		授業担当者 山 英子																				
授業の回数 10回(最終回は試験)	時間数 20 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期																				
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>社会人になるためのマナーの基本を学び、敬語や応対の必要性を理解する。 実習や就職内定までに、報告・連絡・相談ができる社会人を目指して成長する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>ロールプレイングを取り入れながら、接客の基本を身につける。 社会人として最低限の敬語の言葉遣いを身につける。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>接客マナー検定3級合格を目指し、報告・連絡・相談が常識的にできる人材になる。</p>																							
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 社会人としての心構え、身だしなみ</td> <td style="width: 50%;">演習 : 発声練習、立ち方、お辞儀</td> </tr> <tr> <td>2. 指示のうけ方、報告</td> <td>演習 : 発声練習、歩き方</td> </tr> <tr> <td>3. 言葉遣い</td> <td>演習 : 発声練習、椅子の座り方、スピーチ</td> </tr> <tr> <td>4. お客様対応</td> <td>①試験 接客テスト 3級</td> </tr> <tr> <td>5. 電話対応</td> <td>試験 答え合わせ</td> </tr> <tr> <td>6. 受付と訪問</td> <td>②試験 接客テスト 3級</td> </tr> <tr> <td>7. ビジネス文章</td> <td>試験 答え合わせ</td> </tr> <tr> <td>8. 常識問題・過去問題集</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. サービス接客検定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 試験</td> <td></td> </tr> </table>				1. 社会人としての心構え、身だしなみ	演習 : 発声練習、立ち方、お辞儀	2. 指示のうけ方、報告	演習 : 発声練習、歩き方	3. 言葉遣い	演習 : 発声練習、椅子の座り方、スピーチ	4. お客様対応	①試験 接客テスト 3級	5. 電話対応	試験 答え合わせ	6. 受付と訪問	②試験 接客テスト 3級	7. ビジネス文章	試験 答え合わせ	8. 常識問題・過去問題集		9. サービス接客検定		10. 試験	
1. 社会人としての心構え、身だしなみ	演習 : 発声練習、立ち方、お辞儀																						
2. 指示のうけ方、報告	演習 : 発声練習、歩き方																						
3. 言葉遣い	演習 : 発声練習、椅子の座り方、スピーチ																						
4. お客様対応	①試験 接客テスト 3級																						
5. 電話対応	試験 答え合わせ																						
6. 受付と訪問	②試験 接客テスト 3級																						
7. ビジネス文章	試験 答え合わせ																						
8. 常識問題・過去問題集																							
9. サービス接客検定																							
10. 試験																							
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>ビジネスマナー基礎実習 早稲田教育出版 サービス接客検定3級問題集 早稲田教育出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況(2/3以上)・受講態度・提出物・資格取得状況をもとに、総合的に評価する。</p> <p>* 資格取得は、(一財)日本医療教育財団主催の講義を終了する。</p>																					
<p>【担当講師】 山英子：職歴—医療事務歴10年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級</p>																							

授 業 概 要

授業科目名 患者接遇	授業の種類 講 義		授業担当者 山 英子
授業の回数 15回(最終回は試験)	時間数 30 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医療事務職を目指すため、敬語の基本を身に付け、病院受付で上手な患者接遇のできる人材に成長する。医療事務技能審査試験(メディカルクラーク)の接遇問題合格を目指す。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>患者接遇の事例に対して、患者様が安心して納得できる対応を自ら導き出す。身だしなみ、挨拶から文章作法まで相手を心地よくする基本スキルを学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>メディカルクラーク(患者接遇)に合格すると同時に 自分の対応力にも自信をつける。医療機関への就職活動に対して意欲的に取り組むことができる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初診の外来患者(受付) 2. 再診の外来患者①(時間外・深夜・休日) 3. 再診の外来患者②(検診からの再診診療の理解と実費)) 4. 再診の外来患者③(紹介状患者の保険料) 5. 再診の外来患者④(保険証理解の説明) 6. 再診の外来患者⑤(傷病手当金の説明と理解) 7. 再診の外来患者⑥(保険証と診察券の忘れ物対応) 8. 再診の外来患者⑦(診察代金に対するのクレーム処理) 9. 再診の外来患者⑧(外来管理加算の理解と説明) 10. 患者の家族への説明(個人情報理解と待合室等の注意) 11. 保険会社への説明(個人情報注意) 12. 生活保護法患者への説明(申請と対応方法) 13. 資格試験対応①(過去問題) 14. 資格試験対応②(過去問題) 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「ケーススタディで学ぶ 患者接遇パーフェクト・レッスン」 医学通信社</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況(2/3以上)・受講態度・提出物・資格取得状況をもとに、総合的に評価する。</p> <p>*メディカルクラークの資格取得は、(一財)日本医療教育財団主催の試験を受験する。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>山英子：職歴—医療事務歴10年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級</p>			

授 業 概 要

授業科目名 リフレッシュセミナー I	授業の種類 演 習		授業担当者 石黒 和恵
授業の回数 10回	時間数 20 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>対人関係を大切にし、クラス内のルールを守り、相手を不快にさせないマナーを身に付ける。医療機関実習や就職時の面接指導に活かす。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>周囲とのコミュニケーションを大切にしながら、人の気持ちを考えて行動できることを目的とする。女子力UPしながらリフレッシュする講座として、社会人になるためのマナーを種類豊富に体験する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>活動することで対人関係を学び、気の使い方・言葉遣い・女性としての行動力を身に付ける。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビューティーセミナー ・ハーバリウム作り ・ヨガで体をほぐしてリラックス ・手話講座 ・手作りアート ・就職講座 病院職員の心得 ・もの作り体験 ・生活講座 働くこと意識 など ・最終日には試験を行う 			
自作プリント		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・提出物等参加状況の総合評価とする。 	

授 業 概 要

授業科目名 就職指導 I	授業の種類 演 習		授業担当者 水 野 正 伸
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年生	配当時期 前 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>就職にむけての心構えや言葉のつかい方などを学び、就職活動における実際的な技能を身につける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>言葉づかいの演習、電話の受け方・かけ方、履歴書の書き方、ハローワーク見学、面接指導、自己PRの方法などを取り入れながら進めていく。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>就職にむけての心構えや言葉づかいなどを理解し、就職活動および就労時に活かすことができる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職にむけて—社会人になるための心構え 2. 就職にむけて—医療事務の仕事への理解 3. 就職にむけて—就職活動の内容 4. 就職にむけて—求人票の見方 5. 就職にむけて—ハローワークの活用方法 6. 就職にむけて—履歴書の書き方① 7. 就職に向けて—履歴書の書き方② 8. 就職に向けて—社会保険制度の理解 9. 就職に向けて—言葉遣いと電話の受け方・かけ方 10. 就職に向けて—一般常識① 11. 就職に向けて—一般常識② 12. 就職に向けて—面接、作文での自己PR 13. 就職に向けて—自己PRの方法 14. 就職に向けて—面接の指導 15. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>『専門学校生のための 就職要点手帳』 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 授業に対する態度(小テスト及び提出物等を含む)などの総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 医事コン I	授業の種類 演 習		授業担当者 石黒 和恵
授業の回数 10回(最終回は試験)	時間数 20 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医事PCの必要性を理解し、実習や就職にも対応できる能力を身に付ける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>医事PCの基本的な患者登録、診療内容入力、診療報酬明細書(レセプト)を学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>患者登録・カルテ入力・会計処理・診療報酬明細書発行までの一連の動作を習得する。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本操作(基本設定・注意事項) 2. 基本操作(患者登録・受付) 3. 会計チェック(診察料～医学管理等) 4. 会計チェック(投薬～注射) 5. 会計チェック(処置～手術) 6. 会計チェック(麻酔～輸血) 7. 会計チェック(画像診断～放射線治療) 8. 会計チェック(リハビリテーション) 9. 会計チェック(病理診断・入院入力) 10. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「医科 資料ブック」 ソラスト コンピュータ カルテ例題集 ケアアンドコミュニケーション</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験、提出物、出席状況、受講態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 石黒和恵：職歴—医療事務歴35年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級、日商簿記検定2級</p>			

授 業 概 要

授業科目名 医療機関見学	授業の種類 実 習		授業担当者 石黒 和恵
授業の回数 2回	時間数 4 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医療機関の仕事や雰囲気を感じ、実習・就職・資格試験・授業に対する意欲につなげる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習先への電話・面会予約・挨拶・見学と全てを自分で考え行動する。 実習当日までに不備がないようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>医療機関見学の目的を理解し、挨拶・マナー・メモの取り方を理解する。 社会人になるための目標を見据え、今後の自己課題を明確にする。</p>			
<p>[授業のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>医療機関見学(挨拶)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師や職員の方に挨拶をして、実習についての説明を受ける。 ・受付や診察室・個々の検査室を廻り、医療機関を見学する。 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>自作プリント</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・レポート、出席状況、見学態度・連絡事項の報告などの総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 医療機関実習指導	授業の種類 講 義		授業担当者 石黒 和恵/山 英子
授業の回数 8回	時間数 16 時間	配当学年 1年	配当時期 前 期・後 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医療機関実習に向けて、実習生として必要な基本的態度、知識を身につける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>病院実習の目的、意義、実習生としての基本的な態度、記録書類の記入方法などについて学習する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>病院実習の目的を理解し、実習に向けて意欲的に取り組むことができる。また、実習の振り返りから、新たな課題や自己目標を明確にする。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院実習事前指導① 実習の意義と心構え 2. 病院実習事前指導② 個人票作成 3. 病院実習事前指導③ 実習手引きの説明 4. 病院実習事前指導④ 実習記録の書き方 5. 病院実習事前指導⑤ 実習前オリエンテーション、最終確認 6. 病院実習事前指導⑥ 各自実習医療機関についての把握 7. 病院実習事後指導 お礼状、報告会の準備 8. 病院実習報告会について・実習準備最終確認/試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>自作プリント 実習の手引き</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況、受講態度、提出物、レポート、報告会を評価の対象とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上。 	
<p>【担当講師】</p> <p>石黒和恵：職歴—医療事務歴35年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級、日商簿記検定2級</p>			

授 業 概 要

授業科目名 医療機関実習	授業の種類 実 習		授業担当者 石黒 和恵
授業の回数 22. 5回	時間数 45 時間	配当学年 1年	配当時期 後 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医療機関の役割を理解し、受付業務、患者対応、電話対応、診療録の管理などがどのようにされているか知る。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>実習を通じて、医療事務の業務、職員や患者様とのコミュニケーション方法を学ぶ。医療現場で責任を持って働くことの意義を知り、仕事の規則やマナーを学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>業務内容を理解し、職業人としての責務を理解する。また、日常業務の対処方法を知る。実習記録を正しく記入し、自分自身を振り返ることによって就職の方向性を見据える。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>医療機関実習 一日8時間(休憩時間を除く)、5日間の実習を行う。</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>実習の手引き 適宜 プリント</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況、実習記録、実習態度、実習評価の総合評価とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者
介護事務 I	講 義		石黒 和恵
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期
10回	20時間	1年	後 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護事業の運営に欠かせない介護報酬事務等の介護事務を担える専門的な知識を学ぶ。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>以下の点についてテキストを用いて進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護事務職員の業務を学習する。 ・介護事務職員として必要な利用者との人間関係の基礎的知識を学習する。 ・介護事務業務における必要な社会福祉の基礎的知識を学習する。 ・介護事務業務における必要な介護保険制度を学習する。 ・介護事務業務にかかわるソーシャルワークについて学習する。 <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>介護事務を担うために必要な知識を身につける。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護事務職員の仕事 2. 人間関係の基礎－人間関係の基礎、人間関係の発達 3. 人間関係の基礎－援助的態度、コミュニケーションの技術 4. 社会福祉の基礎－社会福祉の理念と意義および概要、社会保障制度の概要 5. 社会福祉の基礎－社会福祉をめぐる動向、地域福祉の理念と内容、老人福祉の法制度 6. 社会福祉の基礎－障害福祉の法制度、後期高齢者医療制度、高齢者に対する総合的援助 7. 介護保険制度の概要① 8. 介護保険制度の概要② 9. ソーシャルワークの基礎 10. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>『介護事務講座 テキスト2 社会福祉と人間関係』東京丸の内出版 ※介護保険制度の概要については、『介護事務講座 テキスト1 介護保険請求事務』東京丸の内出版を使用する。</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 授業態度(欠席、遅刻、早退を含む)と試験の総合評価とする。</p>	
<p>【担当講師】</p> <p>石黒和恵：職歴－医療事務歴35年 資格－メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級、日商簿記検定2級</p>			

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
介護事務Ⅱ	講 義		山 英子		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
30回(最終回は試験)	60 時間	1年	後 期		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>近年は高齢化に伴い、介護保険適用の病院や診療所でも、専門技能を持つ人材が必要とされている。介護事務の知識や点数計算を理解し、最終的にケアクラーク技能認定試験の資格を取得する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>介護支援専門員の役割とケアプラン作成の手順を理解し、介護給付費明細書を作成する。ケアクラーク認定試験資格取得に向けて、必要な介護事務点数計算の知識について学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>介護報酬請求のしくみを理解し、実務に関する明細書の記載ができる。 介護サービス事業所が増える一方、働く人や供給が追い付いていないのが現状である。介護請求ができることによって就職の幅も広がり、知識を習得することは病院の受付窓口での対応にも活かされる。</p>					
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度のしくみ 2. 介護支援専門員の役割 3. ケアプラン作成の手順 4. 要介護認定のしくみ 5. 介護サービス計画の作成 6. 介護給付費の算定と請求方法① 7. 介護給付費の算定と請求方法② 8. 介護給付費明細書の記載方法① 9. 介護給付費明細書の記載方法② 10. 介護給付費請求の実際 11. 社会福祉サービス体系 12. 介護事務職員の実務① 13. 介護事務職員の実務② 14. 電子請求の概要① 15. 電子請求の概要② </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 介護報酬設定の基本的な考え方 17. 公費負担と請求明細書記載方法 18. 在宅サービス・施設サービス記載方法 19. 指定居宅介護支援費について 20. 介護予防支援費介護給付費 21. 指定地域密着型サービス介護給付 22. 端数処理とサービスコードについて 23. 保険優先公費について 24. 認定調査の理解 25. 検定対策① 26. 検定対策② 27. 検定対策③ 28. 検定対策④ 29. 試験 30. ケアクラーク検定試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度のしくみ 2. 介護支援専門員の役割 3. ケアプラン作成の手順 4. 要介護認定のしくみ 5. 介護サービス計画の作成 6. 介護給付費の算定と請求方法① 7. 介護給付費の算定と請求方法② 8. 介護給付費明細書の記載方法① 9. 介護給付費明細書の記載方法② 10. 介護給付費請求の実際 11. 社会福祉サービス体系 12. 介護事務職員の実務① 13. 介護事務職員の実務② 14. 電子請求の概要① 15. 電子請求の概要② 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護報酬設定の基本的な考え方 17. 公費負担と請求明細書記載方法 18. 在宅サービス・施設サービス記載方法 19. 指定居宅介護支援費について 20. 介護予防支援費介護給付費 21. 指定地域密着型サービス介護給付 22. 端数処理とサービスコードについて 23. 保険優先公費について 24. 認定調査の理解 25. 検定対策① 26. 検定対策② 27. 検定対策③ 28. 検定対策④ 29. 試験 30. ケアクラーク検定試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度のしくみ 2. 介護支援専門員の役割 3. ケアプラン作成の手順 4. 要介護認定のしくみ 5. 介護サービス計画の作成 6. 介護給付費の算定と請求方法① 7. 介護給付費の算定と請求方法② 8. 介護給付費明細書の記載方法① 9. 介護給付費明細書の記載方法② 10. 介護給付費請求の実際 11. 社会福祉サービス体系 12. 介護事務職員の実務① 13. 介護事務職員の実務② 14. 電子請求の概要① 15. 電子請求の概要② 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 介護報酬設定の基本的な考え方 17. 公費負担と請求明細書記載方法 18. 在宅サービス・施設サービス記載方法 19. 指定居宅介護支援費について 20. 介護予防支援費介護給付費 21. 指定地域密着型サービス介護給付 22. 端数処理とサービスコードについて 23. 保険優先公費について 24. 認定調査の理解 25. 検定対策① 26. 検定対策② 27. 検定対策③ 28. 検定対策④ 29. 試験 30. ケアクラーク検定試験 				
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「介護・保健・福祉サービスガイド」 東京法規出版 「介護保険請求実務」 ニチイ学館 「社会福祉と人間関係」 ニチイ学館 「介護事務講座 資料ブック」 ソラスト 「技能認定試験問題集」「介護給付費明細書」 ニチイ学</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・試験、提出物、受講態度、出席状況の総合評価。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上。 *ケアクラークの資格である(一財)日本医療教育財団主催の検定を取得する。</p>			
<p>【担当講師】 山英子：職歴—医療事務歴10年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級</p>					

授 業 概 要

授業科目名 調剤事務	授業の種類 講 義		授業担当者 山 英子		
授業の回数 25回(最終回は試験)	時間数 50 時間	配当学年 1年	配当時期 後 期		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>就職において調剤事務の需要も増え、携わるうえで必要になる基礎的な知識と点数算定を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>医療保険の知識を再度振り返り、調剤報酬明細書(調剤レセプト)を作成するための算定の留意点、記載方法等について学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>処方せんから必要なことを読み取り、調剤報酬明細書(調剤レセプト)を作成できる。</p>					
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(基礎)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 処方せんのメリットとデメリット 2. 医療保険制度 3. 調剤事務の仕事と算定方法 4. 保険調剤のしくみ(内服・内服適剤・頓服・注射) 5. 保険調剤のしくみ(自家製剤・計量・嚥下困難) 6. 処方せん(院外処方せんのルール) 7. 処方せん(算定方法とレセプト記入) 8. 薬の基礎知識(薬価基準と記載内容) 9. 薬の基礎知識(薬の品名・剤形・規格・単価) 10. 小テスト(第1回目レポート) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(点数算定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 調剤のしくみ(投与量と使用方法) 12. 薬剤料の算出(基本点数と加算) 13. 薬剤料の算出(点数の換算と単位の理解) 14. 調剤技術料(自家製剤・計量混合調剤加算) 15. 調剤技術料(嚥下困難者・一包化加算) 16. 薬学管理料(薬剤服用歴管理指導料) 17. 薬学管理料(その他の管理料について) 18. 小テスト(第2回目レポート) 19. レセプト作成演習①(問題1～5) 20. レセプト作成演習②(問題6～10) 21. レセプト作成演習③(問題11～15) 22. 小テスト(第3回目レポート) 23. 試験 24～25. 修了認定試験 </td> </tr> </table>				<p>(基礎)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 処方せんのメリットとデメリット 2. 医療保険制度 3. 調剤事務の仕事と算定方法 4. 保険調剤のしくみ(内服・内服適剤・頓服・注射) 5. 保険調剤のしくみ(自家製剤・計量・嚥下困難) 6. 処方せん(院外処方せんのルール) 7. 処方せん(算定方法とレセプト記入) 8. 薬の基礎知識(薬価基準と記載内容) 9. 薬の基礎知識(薬の品名・剤形・規格・単価) 10. 小テスト(第1回目レポート) 	<p>(点数算定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 調剤のしくみ(投与量と使用方法) 12. 薬剤料の算出(基本点数と加算) 13. 薬剤料の算出(点数の換算と単位の理解) 14. 調剤技術料(自家製剤・計量混合調剤加算) 15. 調剤技術料(嚥下困難者・一包化加算) 16. 薬学管理料(薬剤服用歴管理指導料) 17. 薬学管理料(その他の管理料について) 18. 小テスト(第2回目レポート) 19. レセプト作成演習①(問題1～5) 20. レセプト作成演習②(問題6～10) 21. レセプト作成演習③(問題11～15) 22. 小テスト(第3回目レポート) 23. 試験 24～25. 修了認定試験
<p>(基礎)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 処方せんのメリットとデメリット 2. 医療保険制度 3. 調剤事務の仕事と算定方法 4. 保険調剤のしくみ(内服・内服適剤・頓服・注射) 5. 保険調剤のしくみ(自家製剤・計量・嚥下困難) 6. 処方せん(院外処方せんのルール) 7. 処方せん(算定方法とレセプト記入) 8. 薬の基礎知識(薬価基準と記載内容) 9. 薬の基礎知識(薬の品名・剤形・規格・単価) 10. 小テスト(第1回目レポート) 	<p>(点数算定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 調剤のしくみ(投与量と使用方法) 12. 薬剤料の算出(基本点数と加算) 13. 薬剤料の算出(点数の換算と単位の理解) 14. 調剤技術料(自家製剤・計量混合調剤加算) 15. 調剤技術料(嚥下困難者・一包化加算) 16. 薬学管理料(薬剤服用歴管理指導料) 17. 薬学管理料(その他の管理料について) 18. 小テスト(第2回目レポート) 19. レセプト作成演習①(問題1～5) 20. レセプト作成演習②(問題6～10) 21. レセプト作成演習③(問題11～15) 22. 小テスト(第3回目レポート) 23. 試験 24～25. 修了認定試験 				
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「テキスト1・2・3」「薬価表」 「調剤報酬明細書」 「資料ブック」「学科&実技 理解度チェック課題」 (株)ソラスト</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・受講態度・小テスト・修了認定試験・提出物の総合評価とする。 ・2/3以上の出席、総合評価60点以上とする。 			
<p>【担当講師】 山英子：職歴—医療事務歴10年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級</p>					

授 業 概 要

授業科目名	授業の種類		授業担当者		
医療事務Ⅱ	講 義		石黒 和恵		
授業の回数	時間数	配当学年	配当時期		
20回(最終回は試験)	40 時間	1年	後 期		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医療報酬請求に関わる知識を深め、診療点数早見表を読み解く力をつける。 基本の知識を習得した上で、高度な医療の法律を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>実技、学科問題を通し、診療報酬請求事務に関する知識、技術を身につける。 医療実務用語を理解し、難しいカルテを読み取る力を付ける。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>保険制度を理解するとともに、診療報酬明細書(レセプト)の記入・作成ができる。 歯科事務・クリニック事務・大病院事務でも就職可能な知識や能力を身に付け、就職の自信に繋げる。</p>					
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全管理と必要性 2. 傷病手当金の支給条件と支給額 3. 入院診療計画書・地域包括ケア 4. 労災保険の休業補償と支払請求書 5. 普通診断書と出生証明書 6. 難病法・臨床調査個人票と診断書 7. 生活保護法の医療扶助 8. 診療録の記載(役割と構成) 9. 診療情報提供書・介護保険意見書 10. 児童福祉法と母子保健法 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 11. 労働者災害補償保険法 12. 労働者災害補償保険法の点数計算 13. 労働者災害補償保険法の総括 14. 診断書・証明書 15. 自動車損害賠償保険 16. 自動車損害賠償保険の点数計算 17. 自動車損害賠償保険の請求方法 18. 高額療養費の対象と費用 19. 院内帳簿 20. 試験 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全管理と必要性 2. 傷病手当金の支給条件と支給額 3. 入院診療計画書・地域包括ケア 4. 労災保険の休業補償と支払請求書 5. 普通診断書と出生証明書 6. 難病法・臨床調査個人票と診断書 7. 生活保護法の医療扶助 8. 診療録の記載(役割と構成) 9. 診療情報提供書・介護保険意見書 10. 児童福祉法と母子保健法 	<ol style="list-style-type: none"> 11. 労働者災害補償保険法 12. 労働者災害補償保険法の点数計算 13. 労働者災害補償保険法の総括 14. 診断書・証明書 15. 自動車損害賠償保険 16. 自動車損害賠償保険の点数計算 17. 自動車損害賠償保険の請求方法 18. 高額療養費の対象と費用 19. 院内帳簿 20. 試験
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全管理と必要性 2. 傷病手当金の支給条件と支給額 3. 入院診療計画書・地域包括ケア 4. 労災保険の休業補償と支払請求書 5. 普通診断書と出生証明書 6. 難病法・臨床調査個人票と診断書 7. 生活保護法の医療扶助 8. 診療録の記載(役割と構成) 9. 診療情報提供書・介護保険意見書 10. 児童福祉法と母子保健法 	<ol style="list-style-type: none"> 11. 労働者災害補償保険法 12. 労働者災害補償保険法の点数計算 13. 労働者災害補償保険法の総括 14. 診断書・証明書 15. 自動車損害賠償保険 16. 自動車損害賠償保険の点数計算 17. 自動車損害賠償保険の請求方法 18. 高額療養費の対象と費用 19. 院内帳簿 20. 試験 				
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「医療関連法規」 (株)ソラスト</p> <p>「診療点数早見表」 医学通信社</p> <p>「公費負担医療の実際知識 2023年版」 医学通信社</p> <p>「労災事務の基礎知識テキスト」 (株)ソラスト</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・受講態度・小テスト・提出物の総合評価とする。</p> <p>* 希望者は、診療報酬請求事務能力認定試験((公財)日本医療教育財団主催)を受験できる。</p>			
<p>【担当講師】</p> <p>石黒和恵：職歴—医療事務歴35年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級、日商簿記検定2級</p>					

授 業 概 要

授業科目名 リフレッシュセミナーⅡ	授業の種類 演習		授業担当者 石黒 和恵
授業の回数 10回	時間数 20 時間	配当学年 1年	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>社会人としてのビジネスマナーを基本とし、常識の修得と人間関係形成のための生活講座を体験する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>医療現場に就職するものとしての生活に必要な必要な講座や、自分自身をリフレッシュさせる方法を学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>体験を通して就職後の行事の企画作成時に役立て、グループ活動をすることで対人関係を学ぶ。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ(バレーボールなど) ・ 医療事務の英会話体験(外国人受付対応) ・ 生活講座(消費者トラブル基礎知識) ・ アロマ講座 ・ 受付体験(医療現場の受付体験) ・ フルーツケーキ作り ・ 貼り絵で年賀状作成 ・ 最終日には試験を行う <p style="text-align: center;">など</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>自作プリント</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・提出物・コミュニケーション力を評価対象とする。</p>	

授 業 概 要

授業科目名 コミュニケーション	授業の種類 演習		授業担当者 石黒 和恵
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年 1年	配当時期 後期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>コミュニケーションの大切さを学び直し、プレゼンテーション技法の基礎を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>相手に伝わるコミュニケーションとはどういうことなのか、具体的に一つ一つ紐解きながら、理論と実習を通して理解していく。今、持っているスキル以上に自分を表現する能力を身につける。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>理論と演習で体得した「話す」「聞く」の二本柱を統合的に学び、より効果的に相手に伝えられるコミュニケーション技法を体得し、自分の思いを人前でプレゼンテーションできるようになる。</p>			
<p>【授業のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに・コミュニケーションしてみよう① 2. コミュニケーションしてみよう② 3. コミュニケーションしてみよう③ 4. コミュニケーションしてみよう④ 5. コミュニケーションの基本を身につけよう① 6. コミュニケーションの基本を身につけよう② 7. きれいな発声・発音を身につけよう 8. 正しい日本語を身につけよう 9. 話すときの心構えを理解しよう 10. 効果的な話し方を身につけよう 11. 効果的な表現力を身につけよう 12. 聞くことの重要性 13. プレゼンテーション実習① 14. プレゼンテーション実習② 15. まとめ・試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>コミュニケーション技法 (WeNetウイネット)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・授業態度・提出物・イベント参加の総合評価。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 石黒和恵：職歴—医療事務歴35年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級、日商簿記検定2級</p>			

授 業 概 要

授業科目名 PC	授業の種類 演 習		授業担当者 前田 信子
授業の回数 10回	時間数 20 時間	配当学年 1年	配当時期 後 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>事務仕事で使用するパソコンの基本的な機能、操作方法を理解する。 キーボードでの入力に慣れる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>ワード・エクセルを中心に、パソコンの基本的な技術を身に付ける。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>パソコンで簡単な文章や表の作成ができる。 時間をかけずに文字を入力できる。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IME設定・IMEパッド・ファンクションキーの使用方法 2. Wordの概要、文書作成、編集機能、印刷、保存 3. グラフィック機能 (ワードアート、画像、文字効果、ページ罫線) 4. 表のある文書作成 (レイアウト変更、表の書式設定、段落罫線) 5. Excelの概要、データ入力方法、オートフィルの利用 6. 表の作成 (関数、表の書式、表の行と列操作、印刷) 7. グラフの作成 (円グラフ、縦棒グラフ)、データの分析 8. PowerPointの概要、プレゼンテーションの作成 9. スライドショーの実行 (画面切り替え効果、アニメーション設定) 10. Word&Excel試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「Microsoft Word 2021&Microsoft Excel 2021&Microsoft PowerPoint 2021」Office 2021/Microsoft 365対応 FOM出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況・受講態度・提出物の総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	

授 業 概 要

授業科目名 医事コンⅡ	授業の種類 演 習		授業担当者 石黒 和恵/山 英子
授業の回数 10回(最終回は試験)	時間数 20 時間	配当学年 1年	配当時期 後 期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>医事PCと電子カルテを理解し、就職先でも即戦力となり、対応できる能力を身に付ける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>医事PCの外来患者、入院患者、電子カルテシステムを学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>難しい外来患者と入院患者を習得し、就職現場での電子カルテの一連の流れを理解する。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外来カルテ入力(時間外検査) 2. 外来カルテ入力(時間外手術) 3. 入院カルテ入力(診療所) 4. 入院カルテ入力(病院 内科) 5. 外来カルテ入力(病院 内科) 6. 入院カルテ入力(病院 外科) 7. 入院カルテ入力(病院 整形) 8. 外来伝票からの入力 9. 入院伝票からの入力 10. 試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>「医科 資料ブック」 ソラスト コンピュータ カルテ例題集 ケアアンドコミュニケーション</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験、提出物、出席状況、受講態度などの総合評価とする。 ・2/3以上の出席、および総合評価60点以上で単位を与える。 	
<p>【担当講師】 石黒和恵：職歴—医療事務歴35年 資格—メディカルクラーク医科2級、秘書技能検定試験3級、日商簿記検定2級</p>			

授 業 概 要

授業科目名 就職指導Ⅱ	授業の種類 演習		授業担当者 山 英子
授業の回数 15回	時間数 30 時間	配当学年 1年	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>就職に向けて社会人としての心構え、言葉遣い、マナー等を学び、就職に結びつける。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>個人面談、個人面接指導、履歴書作成、ハローワークでの就職活動を意欲的に行う。 派遣会社説明会にも積極的に参加し、個人に合った就職先を探す。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>社会人としての自覚を持ち、希望する就職先で研修を行う。</p>			
<p>〔授業のテーマ・内容・授業方法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己分析と自己PR 2. 就職面接に向けて 3. ビジネスマナー(患者様対応) 4. 報告・連絡・相談の必要性 5. ハローワークでの就職活動(個別) 6. 求人票の見方と注意 7. 履歴書の自己アピール方法 8. ビジネスマナー(医療機関職員対応) 9. 効果的な自己PR練習 10. 就職指導・個人面接指導と練習 11. 個人面談 12. 患者様のクレーム対応 13. 受付対応(総集編) 14. 新人職員の心構え 15. 研修開始に向けて最終確認／試験 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>配布プリントを使用</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・出席状況・受講態度・就職内定状況・提出物の総合評価とする。</p>	

コース別カリキュラム

2年 コース	到達目標	N2レベルの文法や語彙を運用し、論理的に話を組み立て、書き、話すことができる。(CEFR B2～C1レベル)
-----------	------	--

レベル	到達目標	科目名	科目別到達目標	使用教材	時間数	担当教員	評価方法	担当教員
初級 4月-9月 (CEFR A2-A1) レベル	日本語能力 試験N5-N4	総合 初級1 (4-6月)	初級前半文型を体得し、日常生活の基本的なやりとりができる。短い文章を読み理解することができる。	みんなの日本語初級 I 聴解タスク25 書いて覚える文型練習帳	260	小野 小林 斉藤 堀内	筆記試験 口頭試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		総合 初級2 (7-9月)	初級文型を使い、日常会話ができるようになる。買い物やアルバイトなど自分に直接関係のある領域でよく使われる表現が理解できるようになる。物事を説明したり、気持ちや意見を伝えることができる。アルバイト募集など日常的に目にする簡単なチラシやお知らせ、看板などが理解できる。	みんなの日本語初級 II 聴解タスク25 書いて覚える文型練習帳				
		文字 初級	ひらがな・カタカナを正確に読み書きできる。450字程度の漢字の読み書きができる。	1日15分の漢字練習 初級～初中級 上・下	80	小林 斉藤	筆記試験 平常点	斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		会話 初級	日本語の発音のルールを理解し、自然な発音を身につける。あらかじめ用意された簡単なテキストを、聞きやすい発音、イントネーションで話すことができる。	シャドーイング 初～中級、1日10分の発音練習 初級文型でできる にほんご発音アクティビティ みんなの日本語初級 I II	20	小野	口頭試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		作文 初級	表記のルールに則り、作文が作成できる。自分のこと(自己紹介、家族、趣味など)や日常の経験、感想を書くことができる。既習の表現を正しく使い、想像上の内容や、意見、理由を述べることができる。	やさしい作文	40	斉藤 堀内	筆記試験 口頭試験 平常点	堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
中級 10月-3月 (CEFR B1-A2) レベル	日本語能力 試験N4-N3	総合 中級	初級で学んだ表現を、場面に合わせて適切に使うことができる。様々なテーマについての文章を読んで理解し、テーマについて意見を述べることができる。	テーマ別中級までに学ぶ日本語 テーマ別中級から学ぶ日本語 中級から学ぶ日本語ワークブック	80	小野 小林 堀内	筆記試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		文字・語彙 中級	初中級レベルの漢字の読み書きができる。初級の語彙を定着させ、N4レベルの語彙を習得する。N3レベルの語彙を理解し、運用することができる。	1日15分の漢字練習 中級 上 漢字・語彙が弱いあなたへ、オリジナル教材	100	小野 小林 斉藤	筆記試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		作文 中級	既習の語彙・文型を正しく使い、作文が作成できる。テーマに沿って、描写、説明、意見などを、まとまりのある内容で述べるることができる。	日本語作文 I	40	斉藤 堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		会話 中級	日常でよく遭遇する場面において、適切な待遇表現を使って会話ができる。簡単なプレゼンテーションができる。詩の意味や背景を理解し、暗唱ができる。	日本語生中継 初中級編1,2 シャドーイング中～上級、オリジナル教材	40	小林 小野	口頭試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		文法 中級	初級の文法を定着させる。N3レベルの文法を理解し、運用することができる。	文法が弱いあなたへ 「初級日本語文法総まとめポイント20」 新完全マスターN3文法	40	東山 堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了 東山智子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、NAFL日本語教育養成プログラム修了
		読解 中級	短い文章を読み、ポイントを理解することができる。内容に関する簡単な問いに答えることができる。	読解をはじめのあなたへ 日本語総まとめN3読解	40	東山 尾形 堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了 東山智子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、NAFL日本語教育養成プログラム修了 尾形知世: 職歴—日本語教師歴5年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		聴解 中級	身近な話題について内容の聞き取りができる。ニュースの構成を理解し、ポイントが聞き取れる。	毎日の聞き取り+40 上・下 中級からはじめるニュースの日本語聴解 40	60	小林 堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		JLPT対策 (10-12月)	試験のパターンに慣れ、時間配分を考え問題を解くことができる。	日本語能力試験模試と対策 N3	10	堀内	平常点	堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		日本事情 (1-3月)	日本の地理や文化、年中行事や伝統文化について理解する。	知っていますか日本のこと	10	小林	筆記試験 平常点	

レベル	到達目標	科目名	科目別到達目標	使用教材	時間数	担当教員	評価方法	担当講師
		総合 中上級	様々な話題や社会問題についての説明文、論説文などを理解し、自分の意見を述べるすることができる。グラフなどの資料やデータの読み取りと考察ができる。	テーマ別中級から学ぶ日本語 トピックによる日本語総合演習 中級後期	100	小野 小林 斉藤 堀内	筆記試験 口頭試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		文字・語彙 中上級	N2レベルの漢字の書き取り、運用ができる。N2レベルの語彙の意味と使い方を理解する。	新完全マスター 漢字N2 日本語総まとめN2 語彙、新完全マスターN2語彙	80	小林 堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了

中上級 4月-9月	日本語能力試験N3-N2 (CEFR B2-B1) レベル	作文 中上級	自分の意見とその根拠を論理的に書くことができる。	小論文への12のステップ	40	堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		会話 中上級	日常でよく遭遇する場面で、適切な待遇表現を用いた会話ができる。進学の面接の受け答えが正確にできる。	日本語生中継初中級編2 進学する留学生のための面接	40	小林	口頭試験 平常点	
		文法 中上級	N3レベルの文法を適当な場面で運用し、さらに、N2レベルの文法を習得する。	新完全マスター-N3、N2	40	小野 東山	筆記試験 平常点	小野知恵美:職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 東山智子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、NAFL日本語教育養成プログラム修了
		読解 中上級	N2レベルの読み物を分からない部分を類推して読み、大意を把握することができる。	新完全マスター N2	40	尾形	筆記試験 平常点	尾形知世:職歴—日本語教師歴5年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		聴解 中上級	自然に近い速さの、まとまりのある会話やニュースを聞き取り、要旨が把握できる。	日本語総まとめ N2 聴解、日本語能力試験レベル アップトレーニング、ニュースの聴解50	60	小林 堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		JLPT対策 (4-6月)	試験のパターンに慣れ、時間配分を考え問題を解くことができる。	日本語能力試験模試と対策 N2	10	堀内	平常点	堀内咲子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		日本事情2 (7-9月)	日本文化に関する話題を理解し、様々な角度から比較することができる。	クローズアップ日本事情15	10	小林	レポート 平常点	
上級 10月-3月	日本語能力試験N2-N1 (CEFR C1-B2) レベル	総合 上級 (10-12月)	様々な話題や社会問題についての説明文、論説文などを理解し、自分の意見を述べるることができる。教科書にあるトピックからテーマを選択し、調査、考察ができる。	トピックによる日本語総合演習 上級	50	小野 小林 斉藤 堀内	口頭試験 平常点	小野知恵美:職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 堀内咲子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了 斉藤慶子:職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		総合 演習 (1-3月)	テーマを設定し、調査、考察、発表ができる。	新聞、テーマに関する図書、インターネット上のweb 情報等適宜	80		口頭試験 平常点	
		文字・語彙 上級	N1レベルの漢字の読み取りができる。 N2レベルの語彙の運用ができる。	新完全マスター 漢字N1 新完全マスター 語彙N2	80	尾形 斉藤	筆記試験 平常点	斉藤慶子:職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了 尾形知世:職歴—日本語教師歴5年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		作文 上級	体験に基づく記録文、報告文の作成ができる。 目的、手段に合わせた文を書くことができる。メールでの依頼やお礼、報告など、社会生活に必要な文章力を身に着ける。	留学生のための論理的な文章の書き方	40	堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		会話 上級	自然な速さで、様々な場面で適切な待遇表現を用いた会話ができる。目的に合わせた発表、質疑応答ができる。	日本語生中継 中～上級編 留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション	40	小林	筆記試験 平常点	
		文法 上級 (10-12月)	N2レベルの文法を適当な場面で運用することができる。	新完全マスター N2文法	20	東山	筆記試験 平常点	東山智子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、NAFL日本語教育養成プログラム修了
		読解 上級	幅広い話題について書かれた新聞記事や平易な評論を読んで文章の内容を理解することができる。	新完全マスター N2 読解、生教材(新聞)	40	斉藤 堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了 斉藤慶子:職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		聴解 上級	自然な速さの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞き取り、類推しながら内容を理解できる。	日本語総まとめN1 聴解、新完全マスター-N0聴解、 ニュース(生教材)	60	小林 堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		JLPT対策 (10-12月)	試験のパターンに慣れ、時間配分を考え問題を解くことができる。	パターン別徹底ドリル N2	10	堀内	筆記試験 平常点	堀内咲子:職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了

1年6ヶ月 コース	到達目標	日本語能力試験N2レベルの文法・語彙の運用力を身につける。(CEFR B2レベル)	
--------------	------	---	--

レベル	到達目標	科目名	科目別到達目標	使用教材	時間数	担当教員	評価方法	担当教員
初級 10月-3月	日本語能力 試験N5-N4 (CEFR A2- A1) レベル	総合 初級1 (10-12月)	初級前半文型を体得し、日常生活の基本的なやりとりができる。短い文章を読み理解することができる。	みんなの日本語初級 I 聴解タスク25 書いて覚える文型練習帳	260	小野 小森 斉藤 尾形 東山 堀内	筆記試験 口頭試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース 修了 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了 東山智子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、NAFL日本語教育養成プログラム修了 尾形知世: 職歴—日本語教師歴5年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		総合 初級2 (1-3月)	初級文型を使い、日常会話ができるようになる。買い物やアルバイトなど自分に直接関係のある領域でよく使われる表現が理解できるようになる。物事を説明したり、気持ちや意見を伝えることができる。アルバイト募集など日常的に目にする簡単なチラシやお知らせ、看板などが理解できる。	みんなの日本語初級 II 聴解タスク25 書いて覚える文型練習帳				
		文字 初級	ひらがな・カタカナを正確に読み書きできる。450字程度の漢字の読み書きができる。	1日15分の漢字練習 初級～初中級 上・下	80	小林 斉藤	筆記試験 平常点	斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		会話 初級	日本語の発音のルールを理解し、自然な発音を身につける。あらかじめ用意された簡単なテキストを、聞きやすい発音、イントネーションで話すことができる。	シャドーイング 初～中級、1日10分の発音練習 初級文型のできるにほんご発音アクティビティ みんなの日本語初級 I II	20	小野	口頭試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		作文 初級	表記のルールに則り、作文が作成できる。自分のこと(自己紹介、家族、趣味など)や日常の経験、感想を書くことができる。既習の表現を正しく使い、想像上の内容や、意見、理由を述べることができる。	やさしい作文	40	小林 斉藤	筆記試験 口頭試験 平常点	斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了

レベル	到達目標	科目名	科目別到達目標	使用教材	時間数	担当教員	評価方法	担当教員
中級 4月-9月	日本語能力 試験N4-N3 (CEFR B1- A2) レベル	総合 中級	初級で学んだ表現を、場面に合わせて適切に使うことができる。様々なテーマについての文章を読んで理解し、テーマについて意見を述べるることができる。	テーマ別中級までに学ぶ日本語 テーマ別中級から学ぶ日本語 中級から学ぶ日本語ワークブック	80	小野 小森 斉藤 堀内	筆記試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース 修了 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		文字・語彙 中級	初中級レベルの漢字の読み書きができる。初級の語彙を定着させ、N4レベルの語彙を習得する。N3レベルの語彙を理解し、運用することができる。	1日15分の漢字練習 中級 上 漢字・語彙が弱いあなたへ、オリジナル教材	100	小林 斉藤	筆記試験 平常点	斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		作文 中級	既習の語彙・文型を正しく使い、作文が作成できる。テーマに沿って、描写、説明、意見などを、まとまりのある内容で述べる ことができる。	日本語作文 I	40	小野	筆記試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		会話 中級	日常よく遭遇する場面において、適切な待遇表現を使って会話ができる。進学の面接の受け答えが正確にできる。詩の意味や背景を理解し、暗唱ができる。	日本語生中継 初中級編1.2 シャドーイング中～上級、進学する留学生のための 面接	40	堀内	口頭試験 平常点	堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース 修了
		文法 中級	初級の文法を定着させる。N3レベルの文法を理解し、運用することができる。	文法が弱いあなたへ 「初級日本語文法総まとめポイント20」 新完全マスター-N3文法	40	小野 斉藤	筆記試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		読解 中級	短い文章を読み、ポイントを理解することができる。内容に関する簡単な問いに答えることができる。	読解をはじめのあなたへ 日本語総まとめN3読解	40	東山 小林	筆記試験 平常点	東山智子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、NAFL日本語教育養成プログラム修了
		聴解 中級	身近な話題について内容の聞き取りができる。ニュースの構成を理解し、ポイントが聞き取れる。	毎日の聞き取り+40 上・下 中級からはじめるニュースの日本語聴解 40	60	尾形 堀内	筆記試験 平常点	堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース 修了 尾形知世: 職歴—日本語教師歴5年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		JLPT対策 (4-6月)	試験のパターンに慣れ、時間配分を考え問題を解くことができる。	日本語能力試験模試と対策 N3	10	小野 斉藤	平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了
		日本事情1 (7-9月)	日本の地理や文化について理解する。	知っていますか日本のこと	10	小林	筆記試験 平常点	

中上級	日本語能力 試験N3-N2 (CEFR B2- B1)	総合 中上級	様々な話題や社会問題についての説明文、論説文などを理解し、自分の意見を述べる ことができる。グラフなどの資料やデータの読み取りと考察ができる。	テーマ別中級から学ぶ日本語 トピックによる日本語総合演習 中級後期	100	小野 小森 斉藤 堀内	筆記試験 口頭試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格 堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース 修了 斉藤慶子: 職歴—日本語教師歴2年 資格—日本語教師養成講座420時間コース修了 堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース 修了
		文字・語彙 中上級	N2レベルの漢字の書き取り、運用ができる。N2レベルの語彙の意味と使い方を理解する。	新完全マスター 漢字N2 日本語総まとめN2 語彙、新完全マスター-N2語彙	80	小林 堀内	筆記試験 平常点	堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース 修了
		作文 中上級	自分の意見とその根拠を論理的に書くことができる。	小論文への12のステップ	40	堀内	筆記試験 平常点	堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース 修了
		会話 中上級	日常よく遭遇する場面で、適切な待遇表現を用いた会話ができる。聞き手に伝わるプレゼンテーションができる。	日本語生中継初中級編2 オリジナル教材	40	尾形	口頭試験 平常点	尾形知世: 職歴—日本語教師歴5年 資格—日本語教育能力検定試験合格

10月-3月	(CEFR B2-B1)レベル	文法 中上級	N3レベルの文法を適当な場面で運用し、さらに、N2レベルの文法を習得する。	新完全マスター-N3、N2	40	小野 小林	筆記試験 平常点	小野知恵美: 職歴—日本語教師歴18年 資格—日本語教育能力検定試験合格
		読解 中上級	N2レベルの読み物を分からない部分を類推して読み、大意を把握することができる。	新完全マスター N2	40	東山	筆記試験 平常点	東山智子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、NAFL日本語教育養成プログラム修了
		聴解 中上級	自然に近い速さの、まとまりのある会話やニュースを聞き取り、要旨が把握できる。	日本語総まとめ N2 聴解、日本語能力試験レベルアップトレーニング、ニュースの聴解50	60	小林 堀内	筆記試験 平常点	堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		JLPT対策 (10-12月)	試験のパターンに慣れ、時間配分を考え問題を解くことができる。	日本語能力試験模試と対策 N2	10	堀内	平常点	堀内暁子: 職歴—日本語教師歴10年 資格—日本語教育能力検定試験合格、日本語教師養成講座420時間コース修了
		日本事情2 (1-3月)	日本の年中行事や伝統文化などを理解する。	知っていますか日本のこと	10	小林	レポート 平常点	